

OFFICIAL MICROSOFT LEARNING PRODUCT

23347A

Office 365 の有効化と管理

このドキュメントに記載されている情報 (URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更されることがあります。別途記載されていない場合、このドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のものであります。実在する会社名、団体名、商品名、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、個人名、場所、出来事などとは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用をお願いします。このドキュメントのいかなる部分も、米国 Microsoft Corporation の書面による許諾を受けることなく、その目的を問わず、どのような形態であっても、複製または譲渡することは禁じられています。ここでいう形態とは、複写や記録など、電子的な、または物理的なすべての手段を含みます。ただしこれは、著作権法上のお客様の権利を制限するものではありません。

マイクロソフトは、このドキュメントの主題を対象とする特許、特許出願、商標、著作権、またはその他の知的所有権を有する場合があります。マイクロソフトからの書面による使用許諾契約に明示的に記載されていない限り、このドキュメントの提供により、これらの特許、商標、著作権、またはその他の知的所有権に対する使用許諾が付与されるものではありません。

記載されている製造元、製品、または URL は情報提供のみを目的としており、明示、黙示または法律の規定にかかわらず、マイクロソフトはこれらの製造元や、これらの製品をマイクロソフト テクノロジーと共に使用した場合の動作について保証を行うものではありません。製造元または製品に関する記載は、マイクロソフトがその製造元または製品を保証していることを意味するものではありません。このドキュメントには、第三者のサイトへのリンクが含まれている場合があります。リンク先のサイトはマイクロソフトが管理するものではなく、したがって、リンク先のサイトの内容、含まれるリンク、およびそのサイトの変更や更新について、マイクロソフトは責任を負うものではありません。また、リンク先のサイトから受信する Web キャストまたはその他の伝送形式についても、責任を負うものではありません。これらのリンクは、お客様の利便性を考慮して提供されているものであり、マイクロソフトがリンク先のサイトやそのサイトに含まれている製品を保証していることを意味するものではありません。

© 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft および <http://www.microsoft.com/trademarks> に一覧する商標は、Microsoft 企業グループの商標です。その他の商標は各所有者の知的財産です。

製品番号 : 23347A

リリース日 : 2/2018

マイクロソフト ライセンス条項 マイクロソフト インストラクター指導コースウェア

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項 (以下、「本ライセンス条項」といいます) は、お客様と **Microsoft Corporation** (またはお客様の所在地に応じた関連会社。以下、「マイクロソフト」といいます) との契約を構成します。以下のライセンス条項を注意してお読みください。本ライセンス条項は、本ライセンス条項に付属しているコンテンツおよびコンテンツが記録されたメディアのお客様による使用に適用されます。トレーナー コンテンツ、ならびに本許諾コンテンツに関連する更新コンテンツおよび追加コンテンツに、別途固有のライセンス条項が付属していない場合は、それらの製品にも本ライセンス条項が適用されるものとします。それらの製品に固有のライセンス条項が付属している場合は、当該ライセンス条項が適用されるものとします。

本許諾コンテンツにアクセスするか、または本許諾コンテンツをダウンロードもしくは使用することにより、お客様は本ライセンス条項に同意されたものとします。本ライセンス条項に同意されない場合は、本許諾コンテンツにアクセスしたり、本許諾コンテンツをダウンロードまたは使用したりしないでください。

お客様が本ライセンス条項を遵守することを条件として、お客様には取得された各ライセンスについて以下が許諾されます。

1. 定義。

- a. 「認定ラーニング センター」とは、マイクロソフト **IT Academy** プログラム メンバー、マイクロソフト ラーニング コンピテンシー メンバー、またはマイクロソフトが随時指定できるその他同様の法人を意味します。
- b. 「認定トレーニング セッション」とは、認定ラーニング センターにおいて、または認定ラーニング センターを通じて、トレーナーがマイクロソフト インストラクター指導コースウェアを使用して実施するインストラクター指導トレーニング クラスを意味します。
- c. 「クラスルーム デバイス」とは、認定ラーニング センターが所有または管理する、認定ラーニング センターのトレーニング施設にある 1 台のセキュリティで保護された専用コンピューターで、特定のマイクロソフト インストラクター指導コースウェアに指定されているハードウェア レベルを満たすか、または超えているものを意味します。
- d. 「エンド ユーザー」とは、(i) 認定トレーニング セッションもしくはプライベート トレーニング セッションに正規に登録し出席している個人、(ii) MPN メンバーの従業員、または (iii) マイクロソフトの常勤従業員を意味します。
- e. 「本許諾コンテンツ」とは、本ライセンス条項に付属しているコンテンツを意味し、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアまたはトレーナー コンテンツが含まれる場合があります。
- f. 「マイクロソフト認定トレーナー」または「MCT」とは、(i) 認定ラーニング センターまたは MPN メンバーに代わって、トレーニング セッションにおいてエンド ユーザーを指導するために雇用されており、(ii) マイクロソフト認定資格プログラムに基づいてマイクロソフト認定トレーナーとして現在認定されている、個人を意味します。
- g. 「マイクロソフト インストラクター指導コースウェア」とは、IT プロフェッショナルおよび開発者を対象としてマイクロソフト テクノロジーについて指導する、マイクロソフト ブランドのインストラクター指導トレーニング コースを意味します。マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのタイトルは、

MOC、Microsoft Dynamics、またはマイクロソフト ビジネス グループ コースウェアとしてブランド化されている場合があります。

- h. 「マイクロソフト IT Academy プログラム メンバー」とは、マイクロソフト IT Academy プログラムのアクティブ メンバーを意味します。
- i. 「マイクロソフト ラーニング コンピテンシー メンバー」とは、現在ラーニング コンピテンシー ステータスを保持している、Microsoft Partner Network プログラムの有効なアクティブ メンバーを意味します。
- j. 「MOC」とは、IT プロフェッショナルおよび開発者を対象としてマイクロソフト テクノロジについて指導する、マイクロソフト オフィシャル コースと呼ばれる「Official Microsoft Learning Product」インストラクター指導コースウェアを意味します。
- k. 「MPN メンバー」とは、Microsoft Partner Network プログラムにおけるシルバーまたはゴールド レベルの有効なアクティブ メンバーを意味します。
- l. 「個人用デバイス」とは、お客様が個人的に所有または管理する、1 台のパーソナル コンピューター、デバイス、ワークステーション、またはその他のデジタル電子デバイスで、特定のマイクロソフト インストラクター指導コースウェアに指定されているハードウェア レベルを満たすか、または超えているものを意味します。
- m. 「プライベート トレーニング セッション」とは、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアを使用して事前定義された学習目的に基づいて指導する、MPN メンバーが企業顧客に対して提供するインストラクター指導トレーニング クラスを意味します。これらのクラスは不特定多数の人々に対して広告または宣伝が行われず、クラスの出席者は企業顧客が雇用または契約している個人に限定されます。
- n. 「トレーナー」とは、(i) マイクロソフト IT Academy プログラム メンバーが雇用した、認定トレーニング セッションを指導する学問上の認定を受けた教師、または (ii) MCT を意味します。
- o. 「トレーナー コンテンツ」とは、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアを使用してトレーニング セッションを指導するためにトレーナーのみが使用するよう指定された、トレーナー版のマイクロソフト インストラクター指導コースウェアおよびその他の追加コンテンツを意味します。トレーナー コンテンツには、Microsoft PowerPoint プレゼンテーション、トレーナー準備ガイド、トレーナー育成用資料、Microsoft One Note パック、クラスルーム セットアップ ガイド、およびプレリリース コース フィードバック フォームが含まれる場合があります。言い換えると、トレーナー コンテンツには、いかなるソフトウェア、仮想ハード ディスク、または仮想マシンも含まれません。

2. **使用権。** 本許諾コンテンツは使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。本許諾コンテンツは、**ユーザーごとに複製 1 部**が使用許諾されます。そのため、お客様は、本許諾コンテンツにアクセスする、または本許諾コンテンツを使用する各個人に対して、ライセンスを取得しなければなりません。

2.1 以下は、5 組の独立した使用権であり、お客様には 1 組のみが適用されます。

- a. **お客様がマイクロソフト IT Academy プログラム メンバーである場合。**
 - i. お客様自身に代わって取得された各ライセンスは、お客様に提供された形式でマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの複製 1 部を確認するためにのみ使用できます。マイクロソフト インストラクター指導コースウェアがデジタル形式である場合、お客様は最大 3 台の個人用デバイスに複製 1 部をインストールすることができます。お客様が所有または管理していないデバイスに、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアをインストールすることはできません。

- ii. お客様は、エンド ユーザーまたはトレーナーに代わって取得する各ライセンスについて、以下のいずれかを行うことができます。
1. マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのハード コピー版 1 部を、提供しているマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの主題である認定トレーニング セッションの開始直前に限り、かかる認定トレーニング セッションに登録しているエンド ユーザー 1 名に頒布すること。または
 2. マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのデジタル版 1 部の一意の引き換えコード、および当該コースウェアにアクセスする方法に関する手順を、エンド ユーザー 1 名に提供すること。または
 3. トレーナー コンテンツ 1 部の一意の引き換えコード、および当該トレーナー コンテンツにアクセスする方法に関する手順を、トレーナー 1 名に提供すること。

ただし、以下の条項を遵守することを条件とします。

- iii. お客様は、本許諾コンテンツのみへのアクセス権を、本許諾コンテンツの有効なライセンスを取得している個人に提供するものとします。
- iv. お客様は、認定トレーニング セッションに出席している各エンド ユーザーが、かかる認定トレーニング セッションの主題であるマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの有効なライセンス取得済みの複製を各自持っていることを確認するものとします。
- v. お客様は、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのハード コピー版を提供する各エンド ユーザーに本ライセンス条項の複製 1 部が提示されること、および各エンド ユーザーにマイクロソフト インストラクター指導コースウェアを提供する前に、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのエンド ユーザーによる使用に、本ライセンス条項の条件が適用されることに各エンド ユーザーが同意することを確認するものとします。各個人が、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアにアクセスする前に、地域の法律に基づいて強制力を有する方法で、本ライセンス条項に同意する旨を示す必要があります。
- vi. お客様は、認定トレーニング セッションを指導する各トレーナーが、かかる認定トレーニング セッションの主題であるトレーナー コンテンツの有効なライセンス取得済みの複製を各自持っていることを確認するものとします。
- vii. お客様は、お客様のすべての認定トレーニング セッションに関して、指導しているマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの主題であるマイクロソフト テクノロジーについて深い知識と経験を有する有資格のトレーナーのみを雇用するものとします。
- viii. お客様は、MOC タイトルを使用する各認定トレーニング セッションについて、1 週間に提供するトレーニングは最大 15 時間とするものとします。
- ix. お客様は、MCT ではないトレーナーがマイクロソフト インストラクター指導コースウェアのすべてのトレーナー リソースにアクセスできないようにすることに同意するものとします。

b. お客様がマイクロソフト ラーニング コンピテンシー メンバーである場合。

- i. お客様自身に代わって取得された各ライセンスは、お客様に提供された形式でマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの複製 1 部を確認するためにのみ使用できます。マイクロソフト インストラクター指導コースウェアがデジタル形式である場合、お客様は最大 3 台の個人用デバイスに複製 1 部をインストールすることができます。お客様が所有または管理していないデバイスに、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアをインストールすることはできません。
- ii. お客様は、エンド ユーザーまたはトレーナーに代わって取得する各ライセンスについて、以下のいずれかを行うことができます。
1. マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのハード コピー版 1 部を、提供するマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの主題である認定トレーニング セッションの開始直前に限り、かかる認定トレーニング セッションに出席しているエンド ユーザー 1 名に頒布すること。または
 2. マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのデジタル版 1 部の一意の引き換えコード、および当該コースウェアにアクセスする方法に関する手順を、認定トレーニング セッションに参加しているエンド ユーザー 1 名に提供すること。または

3. トレーナー コンテンツ 1 部の一意の引き換えコード、および当該トレーナー コンテンツにアクセスする方法に関する手順を、トレーナー 1 名に提供すること。

ただし、以下の条項を遵守することを条件とします。

- iii. お客様は、本許諾コンテンツのみへのアクセス権を、本許諾コンテンツの有効なライセンスを取得している個人に提供するものとします。
- iv. お客様は、認定トレーニング セッションに出席している各エンド ユーザーが、かかる認定トレーニング セッションの主題であるマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの有効なライセンス取得済みの複製を各自持っていることを確認するものとします。
- v. お客様は、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのハード コピー版を提供する各エンド ユーザーに本ライセンス条項の複製 1 部が提示されること、および各エンド ユーザーにマイクロソフト インストラクター指導コースウェアを提供する前に、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのエンド ユーザーによる使用に、本ライセンス条項の条件が適用されることに各エンド ユーザーが同意することを確認するものとします。各個人が、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアにアクセスする前に、地域の法律に基づいて強制力を有する方法で、本ライセンス条項に同意する旨を示す必要があります。
- vi. お客様は、認定トレーニング セッションを指導する各トレーナーが、かかる認定トレーニング セッションの主題であるトレーナー コンテンツの有効なライセンス取得済みの複製を各自持っていることを確認するものとします。
- vii. お客様は、お客様の認定トレーニング セッションに関して、指導しているマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの主題である、マイクロソフト認定資格の該当する資格情報を保持する有資格のトレーナーのみを雇用するものとします。
- viii. お客様は、MOC を使用するお客様のすべての認定トレーニング セッションに関して、指導している MOC タイトルの主題である、マイクロソフト認定資格の該当する資格情報も保持する有資格の MCT のみを雇用するものとします。
- ix. お客様は、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのみへのアクセス権を、エンド ユーザーに提供するものとします。
- x. お客様は、トレーナー コンテンツのみへのアクセス権を、トレーナーに提供するものとします。

c. お客様が MPN メンバーである場合。

- i. お客様自身に代わって取得された各ライセンスは、お客様に提供された形式でマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの複製 1 部を確認するためにのみ使用できます。マイクロソフト インストラクター指導コースウェアがデジタル形式である場合、お客様は最大 3 台の個人用デバイスに複製 1 部をインストールすることができます。お客様が所有または管理していないデバイスに、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアをインストールすることはできません。
- ii. お客様は、エンド ユーザーまたはトレーナーに代わって取得する各ライセンスについて、以下のいずれかを行うことができます。
 - 1. マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのハード コピー版 1 部を、提供しているマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの主題であるプライベート トレーニング セッションの開始直前に限り、かかるプライベート トレーニング セッションに出席しているエンド ユーザー 1 名に頒布すること。または
 - 2. マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのデジタル版 1 部の一意の引き換えコード、および当該コースウェアにアクセスする方法に関する手順を、プライベート トレーニング セッションに参加しているエンド ユーザー 1 名に提供すること。または
 - 3. トレーナー コンテンツ 1 部の一意の引き換えコード、および当該トレーナー コンテンツにアクセスする方法に関する手順を、プライベート トレーニング セッションで指導するトレーナー 1 名に提供すること。

ただし、以下の条項を遵守することを条件とします。

- iii. お客様は、本許諾コンテンツのみへのアクセス権を、本許諾コンテンツの有効なライセンスを取得している個人に提供するものとします。
- iv. お客様は、プライベート トレーニング セッションに出席している各エンド ユーザーが、かかるプラ

イベント トレーニング セッションの主題であるマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの有効なライセンス取得済みの複製を各自持っていることを確認するものとします。

- v. お客様は、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのハード コピー版を提供する各エンド ユーザーに本ライセンス条項の複製 1 部が提示されること、および各エンド ユーザーにマイクロソフト インストラクター指導コースウェアを提供する前に、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのエンド ユーザーによる使用に、本ライセンス条項の条件が適用されることに各エンド ユーザーが同意することを確認するものとします。各個人が、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアにアクセスする前に、地域の法律に基づいて強制力を有する方法で、本ライセンス条項に同意する旨を示す必要があります。
- vi. お客様は、プライベート トレーニング セッションを指導する各トレーナーが、かかるプライベート トレーニング セッションの主題であるトレーナー コンテンツの有効なライセンス取得済みの複製を各自持っていることを確認するものとします。
- vii. お客様は、お客様のすべてのプライベート トレーニング セッションに関して、指導しているマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの主題である、マイクロソフト認定資格の該当する資格情報を保持する有資格のトレーナーのみを雇用するものとします。
- viii. お客様は、MOC を使用する場合のお客様のすべてのプライベート トレーニング セッションに関して、指導している MOC タイトルの主題である、マイクロソフト認定資格の該当する資格情報を保持する有資格の MCT のみを雇用するものとします。
- ix. お客様は、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアのみへのアクセス権を、エンド ユーザーに提供するものとします。
- x. お客様は、トレーナー コンテンツのみへのアクセス権を、トレーナーに提供するものとします。

d. お客様がエンド ユーザーである場合。

お客様が取得する各ライセンスについて、お客様は、お客様の個人トレーニングに使用する目的に限り、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアを使用することができます。マイクロソフト インストラクター指導コースウェアがデジタル形式である場合、お客様は、トレーニング プロバイダーからお客様に提供された一意の引き換えコードを使用してオンラインでマイクロソフト インストラクター指導コースウェアにアクセスし、かかるマイクロソフト インストラクター指導コースウェアの複製 1 部を最大 3 台の個人用デバイスにインストールして使用することができます。お客様は、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアの複製 1 部を印刷することもできます。お客様が所有または管理していないデバイスに、マイクロソフト インストラクター指導コースウェアをインストールすることはできません。

e. お客様がトレーナーである場合。

- i. お客様が取得する各ライセンスについて、お客様は、認定トレーニング セッションまたはプライベート トレーニング セッションの準備または提供のみを目的として、お客様に提供された形式のトレーナー コンテンツの複製 1 部を 1 台の個人用デバイスにインストールして使用することができます。また、追加の複製 1 部をバックアップ用の複製として別の個人用デバイスにインストールすることができます。かかるバックアップ用の複製は、トレーナー コンテンツの再インストールにのみ使用できます。お客様が所有または管理していないデバイスで、トレーナー コンテンツの複製をインストールまたは使用することはできません。お客様は、認定トレーニング セッションまたはプライベート トレーニング セッションの準備または提供のみを目的として、トレーナー コンテンツの複製 1 部を印刷することもできます。

- ii. お客様は、最新バージョンの MCT 契約書に従って、トレーニング セッションの手順に論理的に関連するトレーナー コンテンツの記述部分をカスタマイズすることができます。お客様は、上記の権利を行使することを選択した場合、以下に従うことに同意するものとします。(i) カスタマイズは、認定トレーニング セッションおよびプライベート トレーニング セッションを指導するためにのみ使用できる、および (ii) すべてのカスタマイズは本ライセンス条項に準拠している。言い換えると、「カスタマイズ」の使用とは、スライドとコンテンツの順序の変更、および一部のスライドまたはコンテンツの不使用のみを意味し、スライドまたはコンテンツの変更または改変を意味しないものとします。

2.2 構成部分の分離。本許諾コンテンツは 1 つの製品として許諾されており、お客様はそのコンポーネントを分離し、複数のデバイスにインストールすることはできません。

2.3 本許諾コンテンツの再頒布。上記の使用権において明示的に規定されている場合を除き、マイクロソフトの書面による許可なく、お客様が第三者に対して、本許諾コンテンツ (および許可される改変) またはその一部を頒布することはできません。

2.4 第三者のプログラムおよびサービス。本許諾コンテンツには、第三者によるプログラムまたはサービスが含まれることがあります。お客様によるこれらの第三者によるプログラムまたはサービスの使用には、当該プログラムおよびサービスに別途固有のライセンス条項が付属している場合を除き、本ライセンス条項が適用されます。

2.5 追加条項。一部の本許諾コンテンツには、その使用に関して追加の条項、条件、およびライセンスが適用されるコンポーネントが含まれる場合があります。かかる条件およびライセンスにおいて本ライセンス条項と矛盾しない条項は、お客様による個々のコンポーネントの使用にも適用され、本ライセンス条項に規定されている条項を補完するものとします。

3. プレリリース テクノロジーに基づく本許諾コンテンツ。本許諾コンテンツの主題がマイクロソフト テクノロジーのプレリリース版 (以下、「**プレリリース版**」といいます) に基づいている場合は、本ライセンス条項の他の規定に加え、以下の条件も適用されます。

- a. **プレリリース版の本許諾コンテンツ。**本許諾コンテンツの主題は、マイクロソフト テクノロジーのプレリリース版に関するものです。当該テクノロジーは、当該テクノロジーの最終版と異なる動作をする場合があります。マイクロソフトは最終版向けに当該テクノロジーを変更することがあります。また、最終版がリリースされない場合もあります。当該テクノロジーの最終版に基づく本許諾コンテンツには、プレリリース版に基づく本許諾コンテンツと同じ情報が含まれていない場合もあります。マイクロソフトは、当該テクノロジーの最終版に基づく本許諾コンテンツを含めて、追加のコンテンツをお客様に提供する義務を負わないものとします。
- b. **フィードバック。**お客様は、マイクロソフトに対して本許諾コンテンツに関するフィードバックを提供する場合、直接または第三者の被指名人を介して、その方法や目的を問わず、お客様のフィードバックを使用、共有、および商品化する権利を無償でマイクロソフトに譲渡するものとします。また、お客様は、該当するフィードバックの対象となるマイクロソフト ソフトウェア、マイクロソフト製品、またはサービスの特定部分を使用するためのすべての特許権、またはこの特定部分に関連する第三者の製品、技術、およびサービスに必要とされるすべての特許権を無償で第三者に譲渡するものとします。お客様は、マイクロソフトがお客様のフィードバックをソフトウェア、テクノロジー、または製品に取り込んだために、マイクロソフトが第三者からソフトウェア、テクノロジー、または製品のライセンスを取得しなければならないようなフィードバックを提供しないものとします。これらの権利は本ライセンス条項の終了後も効力を維持するものとします。

- c. **プレリリース版の有効期間。**お客様がマイクロソフト IT Academy プログラム メンバー、マイクロソフト ラーニング コンピテンシー メンバー、MPN メンバー、またはトレーナーである場合、プレリリース版のテクノロジーに関する本許諾コンテンツのすべての複製の使用を、(i) マイクロソフトがお客様に、プレリリース版のテクノロジーに関する本許諾コンテンツの使用期限として通知した日付、または (ii) 本許諾コンテンツの主題であるテクノロジーの完成版の発売日から 60 日後のうちのいずれか早い方の時点 (以下、「**プレリリース版の有効期間**」) で停止するものとします。お客様は、プレリリース版の有効期間の満了時または終了時に、お客様が所有または管理している本許諾コンテンツのすべての複製を回復できないように削除して破棄するものとします。

4. **ライセンスの適用範囲。**本許諾コンテンツは使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。本ライセンス条項は、お客様に本許諾コンテンツを使用する限定的な権利を付与します。マイクロソフトはその他の権利をすべて留保します。適用される法令により上記の制限を超える権利が与えられる場合を除き、お客様は本ライセンス条項で明示的に許可された方法でのみ本許諾コンテンツを使用することができます。お客様は、使用方法を制限するために本許諾コンテンツに組み込まれている技術的制限に従わなければなりません。本ライセンス条項において明示的に許可されている場合を除き、お客様は以下の行為を行うことはできません。

- 本許諾コンテンツにアクセスするか、または本許諾コンテンツの有効なライセンスを取得していない個人に本許諾コンテンツへのアクセスを許可すること。
- 本許諾コンテンツに含まれている著作権もしくはその他の保護に関する表示 (透かしを含みます)、ブランド、または識別情報を改変すること、取り除くこと、または不明瞭にすること。
- 本許諾コンテンツを改変するか、または本許諾コンテンツの派生品を作成すること。
- 第三者がアクセスまたは使用できるように本許諾コンテンツを公開または提供すること。
- 本許諾コンテンツを複製、印刷、インストール、販売、公開、送信、貸与、改造、再利用、リンク設定もしくは投稿、または第三者に提供もしくは頒布すること。
- 本許諾コンテンツの技術的な制限を回避する方法で使用する。
- 本許諾コンテンツをリバース エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすること、あるいは本許諾コンテンツに対する保護を削除またはその他の方法で妨げること。ただし、適用される法令により明示的に認められている場合を除きます。

5. **権利および所有権の留保。**マイクロソフトは、本ライセンス条項においてお客様に明示的に許諾されていない権利をすべて留保します。本許諾コンテンツは、著作権法およびその他の知的財産に関する法律および条約によって保護されています。マイクロソフトまたはそのサプライヤーは、本許諾コンテンツに関する所有権、著作権、およびその他の知的財産権を所有しています。

6. **輸出規制。**本許諾コンテンツは米国および日本国の輸出に関する規制の対象となります。お客様は、本許諾コンテンツに適用される、すべての国内法および国際法 (輸出対象国、エンド ユーザーおよびエンドユーザーによる使用に関する制限を含みます) を遵守しなければなりません。詳細については www.microsoft.com/exporting をご参照ください。

7. **サポート サービス。**本許諾コンテンツは現状有姿で提供されます。そのため、マイクロソフトはサポート サービスを提供しない場合があります。

8. **解除。**マイクロソフトは、お客様が本ライセンス条項の契約条件を遵守していない場合、他のいかなる権利も制限することなく本ライセンス条項を解除することができます。お客様は、本ライセンス条項の解除時に、お客様が所有または管理している本許諾コンテンツのすべての複製の使用を直ちに停止し、かかるすべての複製を削除して破棄するものとします。

9. **第三者のサイトへのリンク。**お客様は、本許諾コンテンツの使用中に第三者のサイトにリンクすることがあります。第三者のサイトはマイクロソフトの管理が及ばないものであり、第三者のサイトのコンテンツ、第三者のサイトに含まれるリンク、第三者のサイトに対する変更または更新には、マイクロソフトは責任を負

いません。マイクロソフトは、いかなる第三者のサイトから受信されたウェブ キャスティングまたはその他のいかなる形式の送信についても責任を負いません。マイクロソフトは、お客様への便宜を図る目的のみ、第三者へのリンクを提供しています。リンクが含まれていても、マイクロソフトが第三者のサイトを推奨することを意味しません。

10. 完全合意。本ライセンス条項、ならびにトレーナー コンテンツ、更新コンテンツ、および追加コンテンツに関する追加条項は、本許諾コンテンツ、更新コンテンツ、および追加コンテンツについてのお客様とマイクロソフトとの間の完全なる合意です。

11. 準拠法。

- a. 日本。お客様が本ソフトウェアを日本国内で入手された場合、本ライセンス条項は日本法に準拠するものとします。
- b. 米国。お客様が本許諾コンテンツを米国内で入手された場合、抵触法にかかわらず、本ライセンス条項の解釈および契約違反への主張は、米国ワシントン州法に準拠するものとします。消費者保護法、公正取引法、および違法行為を含みますがこれに限定されない他の主張については、お客様が所在する地域の法律に準拠します。
- c. 日本および米国以外。お客様が本許諾コンテンツを日本国および米国以外の国で入手された場合、本ライセンス条項は適用される地域法に準拠するものとします。

12. 法的効力。本ライセンス条項は、特定の法的な権利を規定します。お客様は、地域や国によっては、本ライセンス条項の定めにかかわらず、本ライセンス条項と異なる権利を有する場合があります。また、お客様が本許諾コンテンツを取得された第三者に関する権利を取得できる場合もあります。本ライセンス条項は、お客様の地域または国の法律により権利の拡大が認められない限り、それらの権利を変更しないものとします。

13. あらゆる保証の免責。本許諾コンテンツは、提供しうる形で現状有姿のまま提供されます。お客様は、その使用に関するリスクを負うものとします。マイクロソフトおよびその各関連会社は、明示的な瑕疵担保責任または保証責任を一切負いません。本ライセンス条項では変更できないお客様の地域の法律による追加の消費者の権利が存在する場合があります。マイクロソフトおよびその各関連会社は、法律上許容される最大限において、商品性、特定目的に対する適合性、非侵害性に関する黙示の保証について一切責任を負いません。

14. 救済手段および責任の制限および除外。マイクロソフト、各マイクロソフト関連会社、およびそのサプライヤーの責任は、**5.00 米ドル**を上限とする直接損害に限定されます。その他の損害 (派生的損害、逸失利益、特別損害、間接損害、および付随的損害を含みますがこれらに限定されません) に関しては、一切責任を負いません。

この制限は、以下に適用されるものとします。

- 本許諾コンテンツ、サービス、第三者のインターネットのサイト上のコンテンツ (コードを含みます) または第三者のプログラムに関連した事項
- 契約違反、保証違反、厳格責任、過失、または不法行為等の請求 (適用される法令により認められている範囲において)

この制限は、マイクロソフトが損害の可能性を認識していたか、または認識し得た場合にも適用されます。また、一部の国では付随的損害および派生的損害の免責、または責任の制限が認められないため、上記の制限事項が適用されない場合があります。

Please note: As this Licensed Content is distributed in Quebec, Canada, some of the clauses in this agreement are provided below in French.

Remarque : Ce le contenu sous licence étant distribué au Québec, Canada, certaines des clauses dans ce contrat sont fournies ci-dessous en français.

EXONÉRATION DE GARANTIE. Le contenu sous licence visé par une licence est offert « tel quel ». Toute utilisation de ce contenu sous licence est à votre seule risque et péril. Microsoft n'accorde aucune autre garantie expresse. Vous pouvez bénéficier de droits additionnels en vertu du droit local sur la protection des consommateurs, que ce contrat ne peut modifier. La ou elles sont permises par le droit locale, les garanties implicites de qualité marchande, d'adéquation à un usage particulier et d'absence de contrefaçon sont exclues.

LIMITATION DES DOMMAGES-INTÉRÊTS ET EXCLUSION DE RESPONSABILITÉ POUR LES DOMMAGES. Vous pouvez obtenir de Microsoft et de ses fournisseurs une indemnisation en cas de dommages directs uniquement à hauteur de 5,00 \$ US. Vous ne pouvez prétendre à aucune indemnisation pour les autres dommages, y compris les dommages spéciaux, indirects ou accessoires et pertes de bénéfices. Cette limitation concerne:

- tout ce qui est relié au le contenu sous licence, aux services ou au contenu (y compris le code) figurant sur des sites Internet tiers ou dans des programmes tiers; et.
- les réclamations au titre de violation de contrat ou de garantie, ou au titre de responsabilité stricte, de négligence ou d'une autre faute dans la limite autorisée par la loi en vigueur.

Elle s'applique également, même si Microsoft connaissait ou devrait connaître l'éventualité d'un tel dommage. Si votre pays n'autorise pas l'exclusion ou la limitation de responsabilité pour les dommages indirects, accessoires ou de quelque nature que ce soit, il se peut que la limitation ou l'exclusion ci-dessus ne s'appliquera pas à votre égard.

EFFET JURIDIQUE. Le présent contrat décrit certains droits juridiques. Vous pourriez avoir d'autres droits prévus par les lois de votre pays. Le présent contrat ne modifie pas les droits que vous confèrent les lois de votre pays si celles-ci ne le permettent pas.

2013 年 7 月改訂

第 1 章

Office 365 の計画とプロビジョニング

目次

レッスン 1 : Office 365 の概要	1-2
レッスン 2 : Office 365 テナントのプロビジョニング	1-4
レッスン 3 : パイロット展開の計画	1-6
演習の質問と解答	1-9
復習とまとめ	1-10

レッスン 1

Office 365 の概要

目次

質問と解答	1-3
参考資料	1-3

質問と解答

討論 : 組織での Office 365 の使用方法

質問 : 組織のビジネス要件は何ですか。

解答 : 各組織には Office 365 展開の独自のシナリオがあるため、解答はさまざまです。

質問 : Office 365 はどのように組織のビジネス要件を満たしますか。

解答 : 各組織には Office 365 展開の独自のシナリオがあるため、解答はさまざまです。

質問 : 組織に最適な Office 365 サブスクリプションはどれですか。

解答 : 各組織には Office 365 展開の独自のシナリオがあるため、解答はさまざまです。

参考資料

Office 365 のコア コンポーネント



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Office 365 サービスの説明

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj819284.aspx>

Office 365 Education、Office 365 Nonprofit、および Office 365 Government の各サブスクリプション



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Office 365 Education のプランと料金

<https://products.office.com/ja-jp/academic/compare-office-365-education-plans>



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Office 365 Nonprofit のプランと料金

<https://products.office.com/ja-jp/nonprofit/office-365-nonprofit-plans-and-pricing>



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

政府機関向け Office 365 のプラン

<https://products.office.com/ja-JP/government/compare-office-365-government-plans>

レッスン 2

Office 365 テナントのプロビジョニング

目次

質問と解答	1-5
参考資料	1-5

質問と解答

質問 : Office 365 のテナント アカウントを作成するプロセスでは、どのような手順が必要ですか。

解答 : Office 365 のテナント アカウントを作成するプロセスに含まれる手順は次のとおりです。

1. 試用する Office 365 プランを選択します。
2. 有効な電子メール アカウントを持っていることを確認します (組織 ID または Microsoft アカウントが適切に機能します)。
3. Office 365 Web サイトで試用版リンクをクリックします。
4. 組織の正しい情報を入力します。
5. テキスト メッセージまたは通話による検証をおこない、サインイン プロセスを完了します。

質問 : カスタム ドメインを計画する際に考慮する必要がある要因には、どのようなものがありますか。

解答 : カスタム ドメインを計画する際、次の要因を考慮します。

- **複数のドメイン :** 会社が現在使用している主要ドメインと、組織内で電子メール メッセージに使用している他のドメインの追加を計画します。
- **サブドメイン :** 従属する組織のためにサブドメインが必要な場合、サブドメインを登録できます。
- **ドメインの追加順 :** サブドメインの前に、ルート ドメインを追加する必要があります。
- **DNS レコードのホスティング :** Office 365 の展開のために必要な変更、例えば A、CNAME、TXT、および MX レコードについて、ドメインをホストする組織と話し合います。

参考資料

カスタム ドメインの DNS レコードの構成



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Office 365 の外部ドメイン ネーム システム レコード

<https://support.office.com/ja-jp/article/External-Domain-Name-System-records-for-Office-365-c0531a6f-9e25-4f2d-ad0e-a70bfe09ac0>

レッスン 3

パイロット展開の計画

目次

質問と解答	1-7
参考資料	1-7

質問と解答

質問 : Office 365 パイロットは従来の展開プロセスと比較してどのように異なりますか。


解答 : Office 365 パイロット展開と従来の展開のプロセスの主要な違いは次のとおりです。

- 従来の展開アプローチでは、組織が移行フェーズに到達するまでに数週間または数か月もかかる場合があります。
- Office 365 パイロットの FastTrack 展開アプローチでは、次のことが可能になります。
 - 従来の展開方法を使用するよりも大幅に早い段階で Office 365 の価値を体験できます。
 - 必要に応じて機能を強化できます。

Office 365 への移行をどの程度まで進めるかを決定できます。

参考資料


Office 365 パイロットと従来の展開プロセスとの比較


 **参考資料 :** 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 365 の FastTrack
<http://aka.ms/il5z8i>


顧客の要件の収集


 **参考資料 :** 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 365 FastTrack 計画
<https://planningservices.partners.extranet.microsoft.com/ja/O365/pages/Office-365-Planning.aspx>

展開ツールの概要

 **参考資料 :** 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 365 の FastTrack
<http://aka.ms/il5z8i>

 **参考資料 :** 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 365 (IT 担当者向け)
<https://technet.microsoft.com/ja-JP/office/dn788774>

 **参考資料 :** 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office Blogs の FastTrack
<http://aka.ms/t1mgkg>

 **参考資料 :** 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 365 セキュリティ センター
<https://products.office.com/ja-jp/business/office-365-trust-center-welcome>



参考資料：詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 365 サービスの説明
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj819284.aspx>



参考資料：詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 365 Roadmap
<http://aka.ms/Kgo4ds>



参考資料：詳細については、次のサイトを参照してください。
ソフトウェアアシュアランスと計画サービス
<http://aka.ms/leudft>

演習の質問と解答

演習 : Office 365 のプロビジョニング

質問と解答

質問 : Office 365 アカウントを設定する際、国を正確に指定することが重要な理由は何ですか。

解答 : 一部の設備には国ごとの制約があります。また、Office 365 アカウントを一旦設定すると、国を変更することはできません。そのため、国を正確に指定することが重要になります。

質問 : クライアントが Office 365 環境と通信できるようにするには、どのポートを開く必要がありますか。また、これらのポートとプロトコルの用途は何ですか。

解答 : 暗号化された Web トラフィック用のメイン ポートとして、ポート 443 が開かれている必要があります。

プロトコル / ポート	用途
TCP 443	Office 365 My Company Portal Outlook 2010 および Office Outlook 2007 Microsoft Entourage 2008 for Mac Exchange Web Services/Outlook for Mac 2011 Outlook on the web SharePoint Online
PSOM/TLS 443	Skype for Business Online (アウトバウンドのデータ共有セッション)
STUN/TCP 443	Skype for Business Online (アウトバウンドのオーディオ、ビデオ、およびアプリケーション共有セッション)
TCP 10106***	Outlook on the web の xsi.outlook.com に接続 (必須ではない)
TCP 995	POP3(S)
TCP 587	POP3 を使った SMTP(S) リレー
STUN/UDP 3478	Skype for Business Online (アウトバウンドのオーディオ、およびビデオセッション)
TCP 5223	Skype for Business モバイル クライアント プッシュ通知
RTP/UDP 50000-50019	Outbound Skype for Business (アウトバウンドのオーディオ セッション)
RTP/UDP 50020-50039	Outbound Skype for Business (アウトバウンドのビデオ セッション)
TCP 50040-50059	Outbound Skype for Business アプリケーション共有とファイル転送

復習とまとめ

ベスト プラクティス

Office 365 展開プロセスのこの段階でのベスト プラクティスは次のとおりです。

- Office 365 に対する組織のニーズを確実に理解します。
- Office 365 に移行しない社内サービスを識別します。
- パイロット ユーザーとして適切な人を採用します。
- Office 365 への接続をサポートするのに適したインフラストラクチャを保有していることを確認します。

復習問題

質問: あなたが A. Datum 社のパイロット計画を推進するリーダーに選ばれたとしたら、組織が Office 365 へ移行する可能性を高めるために、どのような資質、スキル、経験を示す必要がありますか。

解答: 時間が許す限り、討論してもらいます。次の資質が役立ちます。

- 専門家らしい外観
- 自信
- 技術的な知識
- 聞き取りのスキル
- 効率的なメモの取り方
- 会議の議長を務めた経験

これらすべての資質、スキル、および経験により、パイロットを展開し、組織を Office 365 へ移行するあなたの能力に対して、組織の信頼を高めることができます。

第 2 章

Office 365 ユーザーとグループの管理

目次

レッスン 1 : ユーザー アカウントとライセンスの管理	2-2
レッスン 2 : パスワードと認証の管理	2-4
レッスン 3 : Office 365 セキュリティ グループの管理	2-6
レッスン 4 : Windows PowerShell による Office 365 ユーザーとグループの管理	2-8
レッスン 5 : 管理アクセス権の構成	2-10
演習の質問と解答	2-12
復習とまとめ	2-14

レッスン 1

ユーザー アカウントとライセンスの管理

目次

質問と解答	2-3
参考資料	2-3

質問と解答

質問 : Office 365 では、どのような種類のユーザー アカウントを利用できますか。

解答 : Office 365 では、次の種類のユーザー アカウントを使用できます。

- クラウド ID : これを使用する場合、Office 365 のみでユーザーの作成と管理をおこないます。
- オンプレミスのディレクトリ サービスを使用して Office 365 と同期するディレクトリ同期 ID
- Active Directory フェデレーション サービス (AD FS) を使用するフェデレーション ID

参考資料

ユーザー アカウントの削除と復元



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Office 365、Azure、Intune で削除済みのユーザー アカウントをトラブルシューティングする方法

<http://aka.ms/g5rx76>



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Exchange Online の非アクティブなメールボックスを管理する

[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn144876\(v=exchg.150\).aspx](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn144876(v=exchg.150).aspx)

レッスン 2 パスワードと認証の管理

目次

質問と解答	2-5
-------------	-----

質問と解答

質問 : Office 365 ではどのようなパスワード ポリシー オプションを使用できますか。

解答 : Office 365 では、次のパスワード ポリシー オプションを使用できます。

- パスワードの有効期限ポリシー
 - パスワードが有効期限切れとなるまでの日数を指定する
 - 何日前に、有効期限切れの警告をユーザーに通知するかを指定する
- ユーザー パスワードのリセット
 - ユーザーの一時パスワードを作成する
- 管理者パスワードのリセット
 - 他の管理者にパスワードのリセットを依頼する
 - 管理者自身でリセットする

質問 : Office 365 の多要素認証はどのようにして有効化できますか。また、どのような多要素認証オプションを使用できますか。

解答 : 管理者は、ユーザーごとに多要素認証を有効にします。Office 365 の多要素認証のオプションは次のとおりです。

- 携帯電話にかける
- 携帯電話にテキスト コードを送信する
- 職場の電話にかける
- アプリで通知する
- アプリにワンタイム コードを表示する

レッスン 3

Office 365 セキュリティ グループの管理

目次

質問と解答	2-7
-------------	-----

質問と解答

質問 : Office 365 の Exchange Online でメールが有効なグループの種類を 3 つ挙げてください。

解答 : Office 365 の Exchange Online でメールが有効なグループの種類は次のとおりです。

- **配布グループ :** メッセージを受信者セットに配布するためのみに使用します。
- **メールが有効なセキュリティ グループ :** メッセージを配布するため、およびリソースへのアクセスを提供するために使用します。
- **動的配布グループ :** このグループは、メッセージの送信時にメンバーシップを動的に決定するために定義する受信者フィルターおよび条件を使用するので、このグループには定義済みのメンバーの一覧はありません。

レッスン 4


Windows PowerShell による Office 365 ユーザーとグループ の管理

目次

参考資料	2-9
------------	-----

参考資料


Windows PowerShell による Office 365 の管理の概要

 **参考資料** : Azure 管理コマンドレットの詳細なリストについては、次のサイトを参照してください。

AzureADHelp

<http://aka.ms/rlunlo>

Windows PowerShell によるユーザーとライセンスの管理

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Office 365、Azure、Intune で削除済みのユーザー アカウントをトラブルシューティングする方法

<http://aka.ms/g5rx76>

レッスン 5

管理アクセス権の構成

目次

質問と解答	2-11
-------------	------

質問と解答

質問 : Office 365 ではどのような管理者の役割を割り当てることができますか。

解答 : 割り当てることができる管理者の役割は次のとおりです。

- 全体管理者
- サービス管理者
- パスワード管理者
- ユーザー管理の管理者
- Exchange Online 管理者
- Skype for Business Online 管理者
- SharePoint 管理者
- 課金管理者

演習の質問と解答

演習 A : Office 365 ユーザーとパスワードの管理

質問と解答

質問 : ユーザー アカウントの作成後、Office 365 管理センターのアクティブ ユーザー ウィンドウでの編集に使用できるのは、どのようなアカウント設定ですか。

解答 : Office 365 管理センターのアクティブ ユーザー ウィンドウで、管理者はユーザー アカウントに対して次の編集タスクを実行できます。

- パスワードのリセット、ユーザーの役割の編集、ユーザーの削除、編集、およびグループへの追加
- プライマリ電子メール アドレスの編集
- 割り当て済みのライセンスの編集
- Microsoft Office のインストールの編集
- メールボックスのアクセス許可の編集
- Exchange のプロパティの編集
- Skype for Business のプロパティの編集

質問 : Office 365 ではどのようなパスワード ポリシー設定を使用できますか。

解答 : Office 365 では、次のパスワード ポリシー設定が使用できます。

- パスワードの有効期限を無期限に設定する
- パスワードが有効期限切れするまでの日数
- パスワードの有効期限が切れることをユーザーに通知するまでの日数

演習 B : Office 365 グループと管理者の管理

質問と解答

質問 : グループへのメンバーの追加と削除を最小限にするためには、グループの構造をどのように設計しますか。

解答 : 入れ子になったグループを使用し、個々のユーザーにではなくグループにアクセス許可を割り当てます。

質問 : Windows PowerShell を使用して、Office 365 のユーザーとグループを管理する前に、何をする必要がありますか。

解答 : 管理者権限で Windows PowerShell 用 Azure AD モジュールを実行し、Connect-Msol コマンドレットを実行します。全体管理者またはユーザー管理の管理者の権限を備えたアカウントの資格情報を入力します。

質問 : RBAC を使用して Office 365 の複数の管理役割を作成するのはなぜですか。

解答 : RBAC は、事前に定義されたアクセス許可を提供します。これを異なるユーザーまたはグループに割り当てることができます。RBAC を使用して、組織のセキュリティとビジネス要件に基づいて、管理タスクを異なる管理者に分割することができます。例えば、一部の管理者はユーザーとグループアカウントの管理を担当し、その他の管理者はユーザーへの適切な Office 365 のライセンスの割り当てを担当します。

復習とまとめ

ベスト プラクティス

- ユーザーとグループの管理について、常に詳細な計画を立て、製品に展開する前に、試験用 Office 365 テナントで計画をチェックします。
- ユーザー管理の効率を高め、製品環境、特に Windows PowerShell スクリプト実行時のエラーをなくすために、ユーザー管理タスクの計画と試験をおこないます。
- 多要素認証によって、管理者が組織のセキュリティ要件に合った認証方法を選択しやすくなるように、計画を立てます。
- 組織のセキュリティおよび業務の要件に従って管理タスクを配分できるよう、管理者の役割を計画します。

復習問題

質問: 組織が Office 365 への移行を決めた場合、ユーザー アカウントの作成にもっとも有効な方法は何ですか。

解答: 組織内で使用されている ID の種類に応じて、解答はさまざまです。次の種類の ID があります。

- **クラウド ID:** 管理者は、Active Directory サイトからユーザー アカウントをエクスポートし、Office 365 へ一括インポートをおこないます。
- **オンプレミスのディレクトリ サービスを使用して Office 365 と同期するディレクトリ同期 ID**
- **AD FS を使用するフェデレーション ID:** フェデレーション ID を使用する場合、管理者がオンプレミス ユーザーを管理し、オンプレミスのディレクトリ オブジェクトを Office 365 と同期させます。これにより実現されるユーザーのサインインが 1 回のみのプロセスを、シングル サインオン (SSO) と呼びます。

質問: Office 365 のパスワード ポリシーを組織でどのように構成し、また、多要素認証をどのように構成しますか。

解答: 解答はさまざまです。次の解答が含まれます。

- 一部の組織は、長期間のパスワードの有効期限を構成します。セキュリティの制限がある組織では、短期間のパスワードの有効期限を構成します。
- 中には、セキュリティを強化するために、多要素認証を有効化する組織もあります。

質問: ユーザーよりもセキュリティ グループに権限を割り当てる方が便利なのはなぜですか。

解答: アクセス許可をセキュリティ グループに割り当てることで、リソースのセキュリティの管理が容易かつ効率的になります。グループに割り当てる場合、管理者はグループ メンバーシップを制御するだけで、適切なアクセス許可レベルをユーザーに付与することができます。例えば、あるユーザーが特定のアクセス許可レベルを必要としている場合、管理者は、事前にアクセス許可が割り当てられた適切なグループのメンバーにそのユーザーを含めます。そのグループからユーザーを削除することで、グループ メンバーシップに基づいて割り当てられていたアクセス許可をユーザーから削除します。

質問: Office 365 管理センターよりも、Windows PowerShell と組み合わせて Office 365 を使用するの、どのような管理シナリオですか。

解答: オブジェクトの一括管理が必要なシナリオでは Windows PowerShell を使用します。一方、単純な設定を構成する必要がある場合は、Office 365 管理センターが便利です。

質問 : Office 365 で RBAC を使用するのとはどのようなシナリオですか。

解答 : 複数の管理者チームが、ユーザー、グループ、サブスクリプション、パスワードなどの Office 365 管理の異なる部分を担当している大規模な組織では、RBAC を使用します。小規模な組織では、数人の管理者がすべての種類の管理タスクを担当しているため、RBAC は使用されません。

第 3 章

Office 365 へのクライアント接続の構成

目次

レッスン 1 : Office 365 クライアントの計画	3-2
レッスン 2 : Office 365 クライアントの接続の計画	3-4
レッスン 3 : Office 365 クライアントの接続の構成	3-7
演習の質問と解答	3-9
復習とまとめ	3-10

レッスン 1

Office 365 クライアントの計画

目次

参考資料	3-3
------------	-----

レッスン 2

Office 365 クライアントの接続の計画

目次

質問と解答	3-5
参考資料	3-5

質問と解答

質問 : Office 365 でのネットワーク接続を評価するために、どのツールを使用しますか。

解答 : Office 365 の正常性、準備、接続のチェック、Office 365 ベストプラクティス アナライザー、Microsoft 接続アナライザー ツール、および Office 365 クライアント パフォーマンス アナライザーを使用します。

質問 : 自動検出機能とは何ですか。


解答 : Office 365 の自動検出サービスは、クライアントの構成プロファイルの作成に Outlook が必要とする構成情報を提供します。自動検出サービスは、Outlook 2007、Outlook 2010、Outlook 2013、Outlook 2016、Lync、および Skype for Business クライアントにプロファイル設定を提供します。


質問 : Office 365 でのクライアント接続のトラブルシューティングのために、どのツールを使用しますか。

解答 : Microsoft リモート接続アナライザー ツールおよび Office 365 クライアント パフォーマンス アナライザー ツールを使用します。


参考資料


ネットワーク インフラストラクチャ要件

 **参考資料 :** ポートの一覧については、次のサイトを参照してください。
Office 365 で使用されるポートとプロトコル
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh852522.aspx>

 **参考資料 :** IP ベースのフィルター処理については、次のサイトを参照してください。
Office 365 URL および IP アドレス範囲
<https://aka.ms/o365endpoints>

ネットワーク帯域幅要件

 **参考資料 :** 詳細については、次のサイトを参照してください。
Exchange Client Network Bandwidth Calculator
<http://aka.ms/r7m054>

 **参考資料 :** 詳細については、次のサイトを参照してください。
Skype for Business, Bandwidth Calculator
<http://aka.ms/i6jsff>

自動検出機能とは



参考資料：リモート接続アナライザー ツールについては、次のサイトを参照してください。
Announcing Microsoft Support and Recovery Assistant for Office 365
<http://aka.ms/ppl6h8>

クライアント接続のトラブルシューティング



参考資料：Microsoft 接続アナライザーで識別される特定のエラー状態に関する詳細と、その問題を解決するための情報については、次のサイトを参照してください。
Microsoft 接続アナライザー ツール
[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj851141\(v=exchg.80\).aspx](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj851141(v=exchg.80).aspx)

レッスン 3

Office 365 クライアントの接続の構成

目次

質問と解答.....	3-8
参考資料.....	3-8

質問と解答

質問: Outlook は Office 365 に接続するためにどのプロトコルを使用しますか。

解答: Outlook は、MAPI over HTTP または Outlook Anywhere (RPC over HTTP) を使用して、Office 365 に接続することができます。

質問: Office 365 の MDM を使用するためにどのような手順をおこないますか。

解答: Office 365 の MDM を使用するためには、次の手順を実行する必要があります。

1. Office 365 の MDM をアクティブ化します。
2. Office 365 の MDM を設定します。
3. デバイス セキュリティ ポリシーを設定します。
4. ユーザーを登録します。
5. デバイスを管理します。

参考資料

Office Online との連携



参考資料: Office Online については、次のサイトを参照してください。
Office Online サービスの説明
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/office-online-service-description.aspx>

OneDrive for Business クライアントの構成



参考資料: 詳細については、次のサイトを参照してください。
OneDrive for Business とは
<https://go.microsoft.com/fwlink/p/?LinkID=271073>

演習の質問と解答

演習 : Office 365 へのクライアント接続の構成

質問と解答

質問 : DNS 構成を編集し、別名 (CNAME)、サービス (SRV) および MX レコードを追加する必要があるのはなぜですか。

解答 : 自動検出サービスを構成するために、CNAME および SRV レコードを追加します。CNAME および SRV レコードを構成すると、Outlook および Skype for Business クライアントは、Office 365 で Exchange Online および Skype for Business Online に接続することができます。また、外部の電子メールサーバーが Office 365 で Exchange Online を見つけ、電子メールを送信できるように、MX レコードも構成します。

質問 : どのようにして Office 365 の自動検出サービスが適切に構成されていることを確認できますか。

解答 : リモート接続アナライザーを使用して、クライアント接続をシミュレートします。Outlook および Skype for Business クライアントを開き、クライアントが Office 365 で Exchange Online および Skype for Business Online に接続できることを確認します。

復習とまとめ

ベスト プラクティス

Office 365 クライアントの展開では計画が重要です。計画する際は、次のことを検討する必要があります。

- Office 365 クライアントを分析し、どのクライアントが組織のビジネス要件を満たすことができるかを判断します。
- Office 365 の展開プロセスで必要となる DNS レコードのすべての変更について、詳細に確認します。DNS が正しく構成されていないと、クライアントが Office 365 サービスに接続するときに問題が発生します。
- ネットワーク接続について計画します。インフラストラクチャを Office 365 に移行すると、組織内のすべてのリソースはクラウドでホストされます。そのため、クライアントの Office 365 への接続をサポートするために、信頼できるインターネット接続が必要になります。
- ファイアウォールや Office 365 へ接続するための内部 DNS サーバーなどのネットワーク インフラストラクチャに対しておこなう必要のある変更を計画します。
- ユーザーの Office 365 サービスへの移行を支援するために、万全のサポート計画を準備します。

第 4 章

ディレクトリ同期の計画と構成

目次

レッスン 1 : ディレクトリ同期の計画と準備	4-2
レッスン 2 : Azure AD Connect によるディレクトリ同期の実装	4-4
レッスン 3 : ディレクトリ同期による Office 365 ID の管理	4-6
演習の質問と解答	4-8
復習とまとめ	4-9

レッスン 1


ディレクトリ同期の計画と準備

目次


参考資料	4-3
------------	-----


参考資料


ディレクトリ同期の計画

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
Azure Hybrid Identity Design Considerations Guide
<http://aka.ms/ibuqek>


ディレクトリ同期の前提条件


 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 365 で "会社の同期可能なオブジェクト数を超過しました。" というエラー メッセージを受け取った場合に、ディレクトリ サービスの割当値を拡張する方法
<http://aka.ms/r4x1q4>


 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
Active Directory とドメインを準備する
[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb125224\(v=exchg.150\).aspx](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb125224(v=exchg.150).aspx)

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
オンプレミスのディレクトリと Azure Active Directory の統合
<http://aka.ms/esbu4f>

ディレクトリ同期の準備

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
オンプレミスのディレクトリと Azure Active Directory の統合
<http://aka.ms/fvexdc>

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
Azure AD Connect の前提条件
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/active-directory/connect/active-directory-aadconnect-prerequisites>

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
IdFix DirSync Error Remediation Tool
<http://aka.ms/sr02nb>

レッスン 2

Azure AD Connect によるディレクトリ同期の実装

目次

参考資料	4-5
------------	-----

参考資料

Azure AD Connect の要件



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Office 365 URL および IP アドレス範囲

<https://aka.ms/o365endpoints>

Azure AD Connect のカスタム同期



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

代替ログイン ID を構成します

<http://aka.ms/nqh5gc>

Azure AD Connect の監視機能



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

クラウド内のオンプレミスの ID インフラストラクチャと同期サービスの監視

<http://aka.ms/dqaaps>

レッスン 3


ディレクトリ同期による Office 365 ID の管理

目次

参考資料	4-7
------------	-----


参考資料

ディレクトリ同期によるユーザーの管理

 **参考資料** : Office 365 で削除されたユーザー アカウントのトラブルシューティング方法については、次のサイトを参照してください。


Office 365、Azure、Intune で削除済みのユーザー アカウントをトラブルシューティングする方法

<https://support.microsoft.com/kb/2619308>

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Getting all Licensed Office 365 users with PowerShell


<http://aka.ms/me03qp>

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。

How to Use PowerShell to Automatically Assign Licenses to Your Office 365 Users

<http://aka.ms/pwr39r>


ディレクトリ同期の変更

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Azure AD Connect Sync: フィルター処理の構成

<http://aka.ms/au8smo>


ディレクトリ同期の監視

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Azure Active Directory cmdlets


<http://aka.ms/pfsm1x>

ディレクトリ同期のトラブルシューティング

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。

オンプレミスのディレクトリと Azure Active Directory の統合

<http://aka.ms/cdm2kk>

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Azure Active Directory 同期ツールのインストールと構成ウィザードのエラー メッセージをトラブルシューティングする方法

<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2684395>

演習の質問と解答

演習：ディレクトリ同期の構成

質問と解答

質問：ディレクトリ同期の OU レベルのフィルター処理をどのように構成しますか。

解答：OU レベルのフィルター処理の構成を含め、ディレクトリ同期の動作中に実行される同期タスクの詳細の構成には、Synchronization Service Manager が使用されます。

フィードバック：3 種類の Azure AD Connect のフィルター処理の構成を管理する 2 つのツール (Synchronization Service Manager および Synchronization Rules Editor) がありますが、Azure AD Connect の OU レベルのフィルター処理を管理するために使用できるツールは、Synchronization Service Manager のみです。

復習とまとめ

ベスト プラクティス

- 適切なプロジェクト計画を立てます。
- フィルター処理を使用する場合、オブジェクトを同期する前にセットアップします。
- クラウド サービス パートナーと連携します。
- 徹底したキャパシティ プランニングを実行します。
- ディレクトリ同期を展開する前に、AD DS を修復します。
- 同期する前に、すべての SMTP ドメインを確認済みドメインとして追加します。

一般的な問題とトラブルシューティングのヒント

一般的な問題	トラブルシューティングのヒント
ディレクトリ同期のフィルター処理が機能しなくなった。	Office 365 管理センターのリンクからは常に最新のリリースへ転送されるため、ディレクトリ同期ツールが最新バージョンであることが重要です。ただし、ツールを新しいバージョンにアップグレードする際、すべての既存のフィルターとその他の管理エージェントのカスタマイズが、自動的に新しいインストールへインポートされる訳ではありません。新しいバージョンにアップグレードする場合、アップグレードしてから最初の同期サイクルを実行する前に、必ず、フィルター処理の構成を手動で再適用する必要があります。
Azure AD Connect のインストール後、Synchronization Service Manager を開くと、次のエラー メッセージが表示される場合があります。 [Synchronization Service に接続できませんでした]	適切な Azure AD Connect のドメイン ユーザー アカウントを ADSyncAdmins グループに追加し、サインアウトしてからサインインします。Azure AD Connect のインストール中にサインインしていたドメイン ユーザー アカウントは、自動的に ADSyncAdmins グループに追加されますが、Synchronization Service Manager を開くためにはサインアウトとサインインが必要です。

実際の問題とシナリオ

ディレクトリ同期は、オンプレミス AD DS のオブジェクトと Office 365 のサービスの間のリンクです。そのため、製品の展開後、Azure AD Connect または Synchronization Service Manager に変更をおこなう際は、十分注意する必要があります。例えば、フィルター処理の些細なミスにより、Office 365 のすべてのユーザーのメールボックスが、ごく短時間に誤って削除されてしまう可能性があります。

環境によっては、別の Office 365 テナント (試用版) に接続した、テスト用の別のディレクトリ同期サーバーで、すべての変更をテストする必要があります。さらに、Office 365 へエクスポートする前に、Synchronization Service Manager で各管理エージェントに対して、手動で実行プロファイルを開始して、保留中のアクションを監視することも必要です。場合によっては、許容削除数の上限値を含めて、Azure AD にエクスポートする新しい実行プロファイルを作成しても良いでしょう。

復習問題

質問：ディレクトリ同期を展開する前に、UPN サフィックスが適切に構成されなかった場合、どのような問題が発生しますか。

解答：ディレクトリ同期が既に展開されている場合、Office 365 用のユーザーの UPN が、AD DS で定義されたユーザーのオンプレミス UPN と一致しない可能性があります。これは、ドメインを確認する前に、ユーザーに Office 365 のサブスクリプション ライセンスを割り当てた場合に発生します。

ツール

IdFix：Office 365 IdFix ツールを使用すると、Office 365 への展開準備の際に発生した AD DS フォレストのオブジェクト同期エラーの大半を特定し、修復することができます。

第 5 章

Office 365 ProPlus の計画と展開

目次

レッスン 1 : Office 365 ProPlus の概要	5-2
レッスン 2 : Office 365 ProPlus のユーザー主導型展開の計画と管理	5-4
レッスン 3 : Office 365 ProPlus の集中管理型展開の計画と管理	5-6
レッスン 4 : Office テレメトリとレポート	5-8
演習の質問と解答	5-10

レッスン 1


Office 365 ProPlus の概要


目次

参考資料	5-3
------------	-----


参考資料


Office 365 展開の概要

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
PC から Office をアンインストールする
<http://aka.ms/imbv8i>

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
管理者向け Office 2016 展開ガイド
[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc303401\(v=office.16\).aspx](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc303401(v=office.16).aspx)

Office 365 ProPlus の更新プログラム ブランチ

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
リファレンス: Office 展開ツールのオプションの構成
<http://aka.ms/clh5x3>

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 365 の商用ユーザーが Office 2016 の新機能にいち早くアクセスする方法
<https://support.office.com/ja-jp/article/4dd8ba40-73c0-4468-b778-c7b744d03ead>

レッスン 2

Office 365 ProPlus のユーザー主導型展開の計画と管理

目次

参考資料	5-5
------------	-----

参考資料

ユーザー主導型インストールの管理



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

64 ビット版または 32 ビット版の Office を選択する

<https://support.office.com/ja-jp/article/2dee7807-8f95-4d0c-b5fe-6c6f49b8d261>

ユーザー主導型展開の考慮事項



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Office のシステム要件

<https://products.office.com/ja-jp/office-system-requirements>



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

モバイル デバイスで Office アプリとメールをセットアップする

<https://support.office.com/ja-jp/article/7dabb6cb-0046-40b6-81fe-767e0b1f014f>

レッスン 3


Office 365 ProPlus の集中管理型展開の計画と管理


目次

参考資料	5-7
------------	-----


参考資料

Office 展開ツールの概要とカスタマイズ

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 2016 展開ツールの概要
[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj219422\(v=office.16\)](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj219422(v=office.16))

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 2016 展開ツールの構成オプション
<http://aka.ms/clh5x3>

グループ ポリシーによる Office の管理と展開

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office 2016 Administrative Template files (ADMX/ADML) and Office Customization Tool
<http://aka.ms/bengwp>

レッスン 4

Office テレメトリとレポート

目次

参考資料	5-9
------------	-----

参考資料

Office テレメトリの展開と構成



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office のテレメトリによって監視されるデータのプライバシーの管理
[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj591589\(v=office.16\).aspx](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj591589(v=office.16).aspx)

Office テレメトリの考慮事項



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。
テレメトリ ダッシュボード展開のトラブルシューティング
[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj219431\(v=office.16\).aspx#tshooting](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj219431(v=office.16).aspx#tshooting)

演習の質問と解答

演習 : Office 365 ProPlus のインストールの管理

質問と解答

質問 : Office 365 Pro Plus の管理された展開の使用を準備する際、configuration.xml ファイルを編集する必要があるのはなぜですか。

解答 : この構成ファイルを使用して、Office 365 Pro Plus のソース ファイルを含む共有フォルダーへの汎用名前付け規則 (UNC) パスを指定します。また、インストールする製品と言語も指定します。

質問 : クイック実行サービスが実行中かどうかを、どのようにして確認することができますか。

解答 : タスク マネージャーを使用して、プロセス リストのバックグラウンド プロセスで [Microsoft Office Click-to-Run] を探します。また、[詳細] タブをクリックし、タスク リストで officeclicktorun.exe を探すこともできます。

第 6 章

Exchange Online の受信者およびアクセス許可の計画と管理

目次

レッスン 1 : Exchange Online の概要	6-2
レッスン 2 : Exchange Online 受信者の管理	6-4
レッスン 3 : Exchange Online のアクセス許可の計画と構成	6-6
演習の質問と解答	6-8
復習とまとめ	6-9

レッスン 1

Exchange Online の概要

目次

質問と解答	6-3
参考資料	6-3

質問と解答

質問 : あなたの組織では Exchange Online をどのように使用しますか。

解答 : 受講者の組織のニーズに基づき、解答はさまざまです。

参考資料

Exchange Online の機能



参考資料 : 最新バージョンの Exchange Online の新機能については、次のサイトを参照してください。

Exchange Online

<http://aka.ms/S44j3g>

Windows PowerShell から Exchange Online への接続



参考資料 : IT プロフェッショナル用 Microsoft Online Services サインイン アシスタント RTW は、Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

IT プロフェッショナル用 Microsoft Online Services サインイン アシスタント RTW

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=28177>



参考資料 : Windows PowerShell 用 Windows Azure Active Directory モジュール (64 ビット版) は、次のサイトからダウンロードできます。

<http://aka.ms/Pwx3a9>

レッスン 2

Exchange Online 受信者の管理

目次

質問と解答	6-5
参考資料	6-5

質問と解答

質問：メール ユーザーとメールボックス ユーザーは同じです。

() 正

() 誤

解答：

() 正

(√) 誤

フィードバック：メール ユーザーには、完全なメールボックス ユーザーの一部の属性と連絡先の特徴が組み合わされています。メール ユーザーとメールボックス ユーザーの主な違いは、メール ユーザーがメールボックスを持たないことです。連絡先とは異なり、メール ユーザーは Office 365 テナントにサインインできます。

参考資料

連絡先の一括インポート



参考資料：サンプルの CSV ファイルをダウンロードするには、次のサイトを参照してください。

Exchange Online に外部の連絡先を一括インポートする

<https://support.office.com/ja-jp/article/bed936bc-0969-4a6d-a7a5-66305c14e958>

レッスン 3

Exchange Online のアクセス許可の計画と構成

目次

質問と解答	6-7
-------------	-----

質問と解答

質問 : Exchange Online のアクセス許可の割り当てにおいて、組織にはどのような要件がありますか。あなたの組織は、集中型または分散型の管理モデルを使用しますか。どのようなアクセス許可を特別に構成する必要がありますか。

解答 : 解答はさまざまです。ほとんどの組織では、Exchange 管理者の中心となるチームが Exchange 環境のフル コントロールを保持する 경우가多く、別のチームのために、メールボックスを作成するアクセス許可の構成が必要な場合があります。一方、さまざまなグループが多様なアクセス許可レベルを必要とする複雑な管理のシナリオを実行する組織もあります。

演習の質問と解答

演習 : Exchange Online の受信者とアクセス許可の管理

質問と解答

質問 : メールが有効なセキュリティ グループを Exchange Online サブスクリプションに追加するには、どの Windows PowerShell コマンドレットを使用しますか。

解答 : New-DistributionGroup コマンドレットを使用できます。

例 : New-DistributionGroup -Name "File Server Managers" -Alias fsadmin -Type security

質問 : この演習では、Set-CalendarProcessing "Conference Room" -AutomateProcessing AutoAccept コマンドレットを実行します。-AutomateProcessing AutoAccept スイッチは何を実行しますか。

解答 : このスイッチは、会議室メールボックスを構成して、自動的に予約の依頼を処理します。

復習とまとめ

復習問題

質問 : Windows PowerShell を使用して Exchange Online テナントを管理するために、何をする必要がありますか。

解答 : Exchange Online を管理するために Windows PowerShell を使用するには、その前に次の手順に従って Exchange Online に接続します。

1. 次を含む Windows PowerShell 用 Azure AD モジュールをインストールします。
 - 1) IT プロフェッショナル用 Microsoft Online Services サインイン アシスタント
 - 2) Azure AD モジュール
2. 次の Windows PowerShell スクリプトを実行します。

```
$credential = Get-Credential
Import-Module MsOnline
Connect-MsolService -Credential $credential
$exchangeSession = New-PSSession -ConfigurationName Microsoft.Exchange -ConnectionUri
"https://outlook.office365.com/powershell-liveid/" -Credential $credential -Authentication "Basic"
-AllowRedirection
Import-PSSession $exchangeSession -DisableNameChecking
```

質問 : Exchange Online では、どのような種類のグループを使用できますか。

解答 : Exchange Online には、次のような種類のグループを作成できるグループ機能も用意されています。

- メールが有効なセキュリティ グループ
- 配布グループ
- 動的配布グループ

第 7 章

Exchange Online サービスの計画と構成

目次

レッスン 1 : Office 365 での電子メール フローの計画と構成	7-2
レッスン 2 : Office 365 での電子メール保護の計画と構成	7-4
レッスン 3 : クライアント アクセス ポリシーの計画と構成	7-6
レッスン 4 : Exchange Online への移行	7-8
演習の質問と解答	7-13
復習とまとめ	7-14

レッスン 1

Office 365 での電子メール フローの計画と構成

目次

質問と解答	7-3
参考資料	7-3

質問と解答

質問 : あなたは、自動応答と自動転送メッセージが Exchange 組織の外に配信されているというトラブル報告を解決する必要があります。さらに、この動作を停止する必要があります、ルールにより生成されたメッセージが組織の外に出ることを許可してはいけなと指示されています。これらの変更を実装するための最良の方法は何ですか。

- ☐ 自動応答と自動転送をブロックするように、既定のリモート ドメインを変更する。
- ☐ 自動応答と自動転送をブロックする新しいリモート ドメインを作成する。
- ☐ Set-OrganizationConfig を使用して、自動応答と自動転送をブロックする。
- ☐ スクリプトを使用して、すべてのユーザーに対する自動応答と自動転送をブロックする。
- ☐ 自動応答と自動転送をブロックするトランスポート ルールを作成する。

解答 :

- ☒ 自動応答と自動転送をブロックするように、既定のリモート ドメインを変更する。
- ☐ 自動応答と自動転送をブロックする新しいリモート ドメインを作成する。
- ☐ Set-OrganizationConfig を使用して、自動応答と自動転送をブロックする。
- ☐ スクリプトを使用して、すべてのユーザーに対する自動応答と自動転送をブロックする。
- ☐ 自動応答と自動転送をブロックするトランスポート ルールを作成する。

フィードバック : * というアドレス空間を使用して、Default というリモート ドメインが、すべての送信メッセージに適用されます。これを変更して、自動応答と自動転送をブロックする必要があります。

質問 : Exchange Online でドメインを電子メールの受信に使用するためには、Office 365 にドメインを追加してから、承認済みドメインとして構成する必要があります。

- ☐ 正
- ☐ 誤

解答 :

- ☐ 正
- ☒ 誤

フィードバック : Office 365 にドメインを追加すると、承認済みドメインとして自動的に追加されます。

参考資料

Office 365 での電子メール フローの概要



参考資料 : SPF レコードのカスタマイズについては、次のサイトを参照してください。
 スプーフィングを防止するために Office 365 で SPF を設定する
[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn789058\(v=exchg.150\).aspx](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn789058(v=exchg.150).aspx)

レッスン 2

Office 365 での電子メール保護の計画と構成

目次

質問と解答	7-5
参考資料	7-5

質問と解答

質問: 接続フィルターで [セーフ リストを有効にする] をオンにすると、誤検知のリスクが低下します。

() 正

() 誤

解答:

(√) 正

() 誤

フィードバック: セーフ リストは、Microsoft が安全な送信者として支持する電子メール送信者の一覧です。[セーフ リストを有効にする] をオンにすることで、安全な送信者からのメッセージが EOP によりスパムとしてマークされることがなくなります。

質問: スパムと精度の高いスパムの違いは何ですか。

解答: 各受信メッセージには、SCL 値が割り当てられます。SCL 値が高いほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。スパムとしてマークされたメッセージには、5 または 6 の SCL 値が付与されます。精度の高いスパムとしてマークされたメッセージには、7 以上の SCL 値が付与されます。

参考資料

EOP とオンプレミスの Exchange Server の統合



参考資料: EOP が使用する IP アドレスの一覧については、次のサイトを参照してください。

Exchange Online Protection の IP アドレス

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn163583%28v=exchg.150%29.aspx>

レッスン 3

クライアント アクセス ポリシーの計画と構成

目次

質問と解答	7-7
-------------	-----

質問と解答

質問 : Office 365 は、接続しようとするパブリックとプライベートのコンピューターの区別をどのようにしておこないますか。

解答 : 既定で、Office 365 ではすべてのコンピューターをプライベートと見なします。パブリックとプライベートのコンピューターは、シングル サインオン (SSO) 用に AD FS を構成した場合のみ区別できます。このシナリオでは、Office 365 は、内部ネットワークからのサインインをプライベートと見なし、外部ネットワークからのサインインをパブリックと見なします。

質問 : モバイル デバイスの既定の構成では、管理者がデバイスを承認するまでは、すべてのデバイスを隔離します。

☐ 正

☐ 誤

解答 :

☐ 正

☒ 誤

フィードバック : モバイル デバイスの既定の構成では、ユーザーが Exchange ActiveSync を有効にしていれば、あらゆる種類のモバイル デバイスに接続が許可されます。既定で、Exchange ActiveSync は、すべてのユーザーで有効化されています。

レッスン 4

Exchange Online への移行

目次

質問と解答	7-9
参考資料	7-11

質問と解答

質問：組織では、現在、Gmail と Google ドキュメントを使用していますが、電子メールとファイル共有のために、Office 365 へ移行することに決まりました。エンド ユーザーに対してダウンタイムを最小化するには、どの種類の移行を使用する必要がありますか。

- ☐ Exchange の一括移行
- ☐ 段階的な Exchange の移行
- ☐ IMAP 移行
- ☐ PST 移行
- ☐ Exchange Online ハイブリッド モード

解答：

- ☐ Exchange の一括移行
- ☐ 段階的な Exchange の移行
- ☒ IMAP 移行
- ☐ PST 移行
- ☐ Exchange Online ハイブリッド モード

フィードバック：Exchange 以外の電子メール システムで使用できる移行オプションは、IMAP と PST のみです。IMAP 移行は、履歴データをインポートするための待ち時間がないため、結果としてダウンタイムが少なくなります。

質問：組織には、オンプレミスの Exchange Server 2010 が展開されていますが、Office 365 への移行が望まれています。組織には、3,000 のメールボックスがあり、メールボックスの平均サイズは 1 GB です。どの種類の移行を使用する必要がありますか。

- ☐ Exchange の一括移行
- ☐ 段階的な Exchange の移行
- ☐ IMAP 移行
- ☐ PST 移行
- ☐ Exchange Online ハイブリッド モード

解答：

- ☐ Exchange の一括移行
- ☐ 段階的な Exchange の移行
- ☐ IMAP 移行
- ☐ PST 移行
- ☒ Exchange Online ハイブリッド モード

フィードバック：Exchange Online ハイブリッド モードは、Exchange Server 2010 から Office 365 への移行の最適な選択肢です。ハイブリッド モードでは、増分移行をおこなえるため、エンド ユーザーのダウンタイムが発生しません。Exchange の一括移行や段階的な Exchange の移行は、Exchange 2007 用および Exchange 2003 用のみの移行の種類であるため、これらをおこなうことはできません。IMAP 移行では予定表と連絡先が移行されません。PST 移行を使用した場合、エンド ユーザーは履歴データが新しいメールボックスにインポートされるまで待つ必要があります。

質問：一括移行バッチは、削除されるまで、同期を続けます。

() 正

() 誤

解答：

(√) 正

() 誤

フィードバック：一括移行バッチによる最初の同期の後、そのバッチを削除するまで、増分同期が実行され続けます。Office 365 へのメール ルーティングが構成されるまで、一括移行バッチを削除しないことが重要です。

活動の順序

次の段階的な Exchange の移行の手順に、1 ～ 9 の番号を振って、正しい順序を示してください。

	手順
	ユーザーに Office 365 ライセンスを割り当てる。
	オンプレミス メールボックスをメールが有効なユーザーに変換する。
	自動検出 DNS レコードを更新する。
	段階的移行バッチを作成する。
	ディレクトリ同期を構成する。
	移行エンドポイントを作成する。
	すべての段階的移行バッチを削除する。
	ソース メールボックスに対してフル アクセスのアクセス許可を持つ移行管理者アカウントを構成する。
	MX レコードを更新して、メール ルーティングを Office 365 へ変更する。


解答：

	手順
7	ユーザーに Office 365 ライセンスを割り当てる。
5	オンプレミス メールボックスをメールが有効なユーザーに変換する。
9	自動検出 DNS レコードを更新する。
4	段階的移行バッチを作成する。
2	ディレクトリ同期を構成する。
3	移行エンドポイントを作成する。
8	すべての段階的移行バッチを削除する。


	手順
1	ソース メールボックスに対してフル アクセスのアクセス許可を持つ移行管理者アカウントを構成する。
6	MX レコードを更新して、メール ルーティングを Office 365 へ変更する。


参考資料

Exchange の一括移行の実装


 **参考資料** : 一括移行の実行の詳細情報については、次のサイトを参照してください。
Office 365 への一括移行
<https://support.office.com/ja-jp/article/9496e93c-1e59-41a8-9bb3-6e8df0cd81b4>

段階的な Exchange の移行の実装


 **参考資料** : 詳細については次のサイトを参照してください。このリンクには、変換プロセスを簡略化するためのスクリプトもあります。
Exchange 2007 のメールボックスをメールが有効なユーザーに変換する
<https://support.office.com/ja-jp/article/a1f79f3c-4967-4a15-8b3a-f4933aac0c34>

 **参考資料** : 段階的な Exchange の移行の実行については、次のサイトを参照してください。
Office 365 へのメールの段階的な移行を実行する
<https://support.office.com/ja-jp/article/83bc0b69-de47-4cc4-a57d-47e478e4894e>

IMAP 移行の実装

 **参考資料** : IMAP 移行については、次のサイトを参照してください。
IMAP メールボックスを Office 365 に移行するために必要なことを理解する
<https://support.office.com/ja-jp/article/3fe19996-29bc-4879-aab9-5a622b2f1481>

PST 移行の実装

 **参考資料** : Office 365 への PST ファイルのインポートについては、次のサイトを参照してください。
Office 365 への PST ファイルや SharePoint データのインポートの概要
<http://aka.ms/G2n2p7>

パブリック フォルダーの移行の実装



参考資料: Office 365 へのパブリック フォルダーの移行については、次のサイトを参照してください。

Use batch migration to migrate legacy public folders to Office 365 and Exchange Online

[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn874017\(v=exchg.150\).aspx](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn874017(v=exchg.150).aspx)

演習の質問と解答

演習 A : Exchange Online によるメッセージ トランスポートの構成

質問と解答

質問: メッセージを Office 365 メールボックスではなく、journal@humongousinsurance.com へ送信するように、ジャーナル ルールを構成した理由は何ですか。

解答: ジャーナル ルールを作成する際、外部の電子メール システムをポイントする必要があります。メッセージを Office 365 メールボックスへ送信するように、ジャーナル ルールを構成することはできません。

質問: トランスポート ルールには、免責事項についてどのような書式設定のオプションがありますか。

解答: トランスポート ルールで、免責事項を HTML を使用して書式設定できます。この演習で使用する <HR> タグは、メッセージを alias@outlook.com へ送信する際に表示される横罫線のための HTML コードです。

演習 B : 電子メール保護とクライアント ポリシーの構成

質問と解答

質問: Sales グループのメンバーに対して、異なるスパム対策の設定を構成した理由は何ですか。

解答: Sales グループ メンバーにとって、誤検知の結果、売り上げの損失になり、ビジネスに悪影響を与える可能性があります。Sales グループに対して別のスパム対策ポリシーを設定することで、誤検知があったとしても、ユーザーは自身のメールボックス内のメッセージにアクセスすることができます。

質問: モバイル デバイスのパスワードを要求することが重要な理由は何ですか。

解答: モバイル デバイスは小型のため、紛失しやすく、また盗難の対象になります。モバイル デバイスを紛失した場合、パスワードにより、承認されていないユーザーがデバイスのデータにアクセスできないように、ある程度保護できます。

復習とまとめ

復習問題

質問: ディレクトリ同期を実施している場合、最後のオンプレミスの Exchange Server を削除しないことが重要な理由は何ですか。

解答: ディレクトリ同期により、ほとんどのユーザー属性について、オンプレミスの AD DS が権限を持つこととなります。そのため、ユーザーに対するすべての変更は AD DS で生じます。ユーザー属性を管理する Exchange 管理ツールには、オンプレミスの Exchange Server の存在が必要です。

質問: あなたは、最近、組織のメールボックスをすべて、Office 365 に移行しました。ユーザーの多くが、Exchange ActiveSync を使用して接続するモバイル デバイスを持っています。セキュリティ責任者は、あるユーザーが自身のモバイル デバイスにパスワードを設定していないことに気づき、ショックを受けました。これが起きた理由は何ですか。あなたは、どのようにしてこれを修正しますか。

解答: Office 365 の既定のモバイル デバイス メールボックス ポリシーでは、セキュリティ設定は全く適用されません。セキュリティ責任者と協力して、適切なセキュリティ設定を特定し、既定のモバイル デバイス メールボックス ポリシーを変更して、それらの設定を適用する必要があります。

第 8 章

Skype for Business Online の計画と展開

目次

レッスン 1 : Skype for Business Online サービス設定の計画と構成	8-2
レッスン 2 : Skype for Business Online ユーザーとクライアントの接続の構成	8-5
レッスン 3 : Skype for Business Online との音声統合の計画	8-7
演習の質問と解答	8-10
復習とまとめ	8-11

レッスン 1

Skype for Business Online サービス設定の計画と構成

目次

質問と解答	8-3
参考資料	8-3

質問と解答

質問 : Windows PowerShell コマンドレットを使用して Skype for Business Online を管理するために、Windows 10 コンピューターを準備しています。どのソフトウェアをコンピューターにインストールする必要がありますか。

- ☐ Windows PowerShell 3.0
- ☐ Microsoft Online Services サインイン アシスタント
- ☐ Windows PowerShell 用の Skype for Business Online モジュール
- ☐ Windows PowerShell 用 Windows Azure Active Directory モジュール

解答 :

- ☐ Windows PowerShell 3.0
- ☐ Microsoft Online Services サインイン アシスタント
- ☒ Windows PowerShell 用の Skype for Business Online モジュール
- ☐ Windows PowerShell 用 Windows Azure Active Directory モジュール

フィードバック : Windows PowerShell は、Windows 10 オペレーティング システムに既にインストールされています。Microsoft Online Services サインイン アシスタントは必要ありません。Windows PowerShell 用 Windows Azure Active Directory モジュールは、Office 365 アカウントの管理に必要ですが、Skype for Business Online の管理には必要ありません。

質問 : 組織外のユーザーを Skype 会議ブロードキャストに招待できますが、発表者としてではなく出席者としてのみ招待できます。

- ☐ 正
- ☐ 誤

解答 :

- ☒ 正
- ☐ 誤

フィードバック : イベント チーム メンバーは、組織内から選ぶ必要があります。

参考資料

Skype for Business Online のサブスクリプション オプション




参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。
 Skype for Business プランの比較
<https://products.office.com/ja-jp/skype-for-business/compare-plans>




参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。
 Skype for Business Online サービスの説明
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj822172.aspx>

Skype for Business Online のネットワーク要件

 **参考資料:** Office 365 および Skype for Business Online が必要とするドメイン名、URL、IP アドレス、およびポート番号については、次のサイトを参照してください。


Office 365 URL および IP アドレス範囲

<https://aka.ms/o365endpoints>

 **参考資料:** Skype for Business Bandwidth Calculator は、帯域幅要件を計算するために使用できるツールです。このツールは、次のサイトからダウンロードすることができます。

Skype for Business, Bandwidth Calculator


<http://aka.ms/h028y7>

 **参考資料:** Office 365 サービスのインターネット帯域幅使用については、次のサイトを参照してください。

Office 365 のネットワーク計画とパフォーマンスのチューニング


<https://support.office.com/article/e5f1228c-da3c-4654-bf16-d163daee8848>

Windows PowerShell による Skype for Business Online への接続

 **参考資料:** Windows PowerShell を使用して Skype for Business Online の共通管理タスクを実行する方法については、次のサイトを参照してください。

クイック リファレンス: Windows PowerShell を使用した一般的な Lync Online の管理タスクの実行


<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn362776.aspx>

 **参考資料:** Skype for Business Online を管理および設定するために使用する特定の Windows PowerShell コマンドレットについては、次のサイトを参照してください。

Lync Online のコマンドレット

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn362817.aspx>

外部通信の構成

 **参考資料:** オンプレミス環境を構成して Skype for Business Online とフェデレーションをおこなう方法については、次のサイトを参照してください。

Lync Server 2013 へのフェデレーションおよび外部アクセスの管理

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/gg520966.aspx>

レッスン 2

Skype for Business Online ユーザーとクライアントの接続 の構成

目次

質問と解答.....	8-6
参考資料.....	8-6


質問と解答

質問: 組織内の特定のユーザーのみが、Skype for Business を使用している他の組織のユーザーと通信できるようにする必要があります。また、組織内の他のすべてのユーザーをブロックする必要があります。これを実現するには、Skype for Business Online をどのように構成しますか。


解答: 上述の構成をおこなうためには、まず、組織の外部アクセスを許可し、外部ユーザーとの通信をブロックすべきユーザーに対して外部通信を無効化する必要があります。

参考資料

Skype for Business Online のクライアント オプション

 **参考資料:** さまざまなクライアントで利用できる Skype for Business の機能については、次のサイトを参照してください。

Skype for Business Server 2015 のクライアントの比較表
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn933896.aspx>

 **参考資料:** さまざまなモバイル デバイス プラットフォームで利用できる Skype for Business の機能については、次のサイトを参照してください。

Skype for Business のモバイル クライアントの比較表
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn951412.aspx>

レッスン 3

Skype for Business Online との音声統合の計画

目次

質問と解答.....	8-8
参考資料.....	8-8


質問と解答

質問: クラウド PBX は、Skype for Business Online の比較的新しいサービスです。あなたの組織はこの機能に興味を持つと思いますか。クラウド PBX の使用を開始するために組織内でどのような変更をおこなう必要がありますか。

解答: 解答はさまざまです。クラウド PBX は、米国を本拠地とし、PBX システムの置き換えを検討している組織にとっては魅力的です。ほとんどの組織では、インターネット接続に十分な帯域幅と、電話のサポートに十分な信頼性を確保するために、慎重に計画する必要があります。


参考資料

音声統合オプションの概要

 **参考資料:** 各音声統合オプションのライセンス要件については、次のサイトを参照してください。


Skype for Business アドオン ライセンス
<https://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=799524>

ダイヤルイン会議の計画


 **参考資料:** ACP および Microsoft ダイヤルイン会議により提供される機能については、次のサイトを参照してください。

Skype for Business のダイヤルインまたは PSTN 会議をセットアップする
<http://aka.ms/Dt6jbp>


PSTN 通話サービス

 **参考資料:** PSTN 音声通話プランについては、次のサイトを参照してください。

Skype for Business Online PSTN サービス利用規約
<https://support.office.com/ja-JP/article/dc6e95cd-51e8-49ca-bcd3-78dc9dae486a>

 **参考資料:** 既存の電話番号を Office 365 に転送する方法については、次のサイトを参照してください。

Skype for Business Online に電話番号を転送する
<https://support.office.com/ja-JP/article/47b3af8e-4171-4dec-8333-c956f108664e>

 **参考資料:** 緊急対応の住所を構成する方法については、次のサイトを参照してください。
組織の緊急対応の住所を追加または削除する

<https://support.office.com/ja-JP/article/f954c67c-b73c-4473-b6cd-a0fbc0fd4c9>

オンプレミス ソリューションによる PSTN 接続



参考資料 : 既存の Skype for Business Server 展開を介する PSTN 接続を計画し構成する方法については、次のサイトを参照してください。

Skype for Business Server 2015 または Lync Server 2013 でクラウド PBX (オンプレミス PSTN 接続) を計画する

<https://technet.microsoft.com/JA-JP/library/mt455212.aspx>

Skype for Business Server 2015 または Lync Server 2013 でクラウド PBX (オンプレミス PSTN 接続) を展開する

<https://technet.microsoft.com/JA-JP/library/mt634319.aspx>



参考資料 : Cloud Connector エディションを計画し構成する方法については、次のサイトを参照してください。

Skype for Business Cloud Connector エディションの計画

<https://technet.microsoft.com/JA-JP/library/mt605227.aspx>

Skype for Business Cloud Connector エディションの構成

<https://technet.microsoft.com/JA-JP/library/mt605228.aspx>

クラウド PBX ソリューションの計画



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。

Skype for Business Online の ExpressRoute および QoS

<https://support.office.com/ja-jp/article/20c654da-30ee-4e4f-a764-8b7d8844431d>

演習の質問と解答

演習 : Skype for Business Online の構成

質問と解答

質問 : litware.com を除くすべての外部ドメインとの通信をブロックしたい場合、演習で実行した Windows PowerShell の手順をどのように変更しますか。

解答 : litware.com を除くすべての外部ドメインとの通信をブロックする場合、次のコマンドレットを実行します。

```
$x = New-CsEdgeDomainPattern -Domain "litware.com"  
$newAllowList = New-CsEdgeAllowList -AllowedDomain $x  
Set-CsTenantFederationConfiguration -AllowedDomains $newAllowList
```

このコマンドレットと演習で実行するコマンドレットの主な違いは、2 番目のコマンド内の New-CsEdgeAllowList コマンドレットです。演習では、New-CsEdgeAllowAllKnownDomains コマンドレットを使用しました。これにより、ブロックされたドメインを除くすべてのドメインが許可されます。

質問 : あなたの組織では Skype 会議ブロードキャストを使用しますか。

解答 : 解答はさまざまです。大規模な組織や、多数のユーザーに対してオンライン プレゼンテーションを頻繁に実行する組織では、この機能をおそらく使用すると考えられます。小規模な組織では、通常の Skype for Business 会議の使用のみで、要件を満たせる可能性が高いと考えられます。

復習とまとめ

一般的な問題とトラブルシューティングのヒント

一般的な問題	トラブルシューティングのヒント
<p>ユーザーは、Skype for Business Online で認証をおこなえない。</p>	<p>展開によっては、正しいドメイン ネーム システム (DNS) リソース レコードが構成されているかどうか、およびディレクトリ同期が機能しているかどうかのチェックが必要な場合があります。また、ファイアウォール設定のチェックが必要な場合もあります。</p> <p>Microsoft リモート接続アナライザー (http://aka.ms/btyn1z) を使用して、Skype for Business Online への接続をテストする必要があります。接続が失敗した場合、アナライザーにより、何が失敗したかについて詳細情報が提供されます。</p>

ツール

- **Skype for Business 管理センター** : Office 365 管理センターからアクセスできます。このツールを使用して、Skype for Business Online のサービス設定とユーザー設定を構成します。
- **Skype for Business Server 管理シェル** : このツールを使用して、Skype for Business Online 設定を構成します。
- **Windows PowerShell 用の Skype for Business Online モジュール** : Skype for Business Server 管理シェルを使用して Skype for Business Online を構成するために必要な Windows PowerShell コマンドレットを提供します。

第 9 章

SharePoint Online の計画と構成

目次

レッスン 1 : SharePoint Online サービスの構成	9-2
レッスン 2 : SharePoint Online サイト コレクションの計画と構成	9-4
レッスン 3 : 外部ユーザー共有の計画と構成	9-7
演習の質問と解答	9-10
復習とまとめ	9-11

レッスン 1

SharePoint Online サービスの構成

目次

質問と解答	9-3
参考資料	9-3

質問と解答

質問 : オンプレミスの SharePoint と SharePoint Online を比較して、メリットおよび考えられるデメリットについて討論します。

解答 : 解答はさまざまです。SharePoint Online は、標準化されたサービスです。SharePoint Online では、オンプレミスの SharePoint 用のカスタム コード ソリューションは使用できず、ハードウェアのサイズを調整する必要がありません。

質問 : SharePoint Online の最大ファイル サイズは、2 GB です。

() 正

() 誤

解答 :

() 正

(√) 誤

フィードバック : サービスの制限と境界に準じて、SharePoint Online での添付ファイルの新しいサイズ制限は、10 GB です。

参考資料

SharePoint 管理センターの概要



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。
ソフトウェアの境界と制限 (SharePoint 2016)
<https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=850649>

SharePoint Online 設定の構成



参考資料 : 詳細については、次のサイトを参照してください。
スクリプト機能のオン/オフの切り替え
<https://support.office.com/ja-jp/article/1f2c515f-5d7e-448a-9fd7-835da935584f>

レッスン 2

SharePoint Online サイト コレクションの計画と構成

目次

質問と解答	9-5
参考資料	9-6

質問と解答

質問: SharePoint 管理センターのサイト コレクション テンプレートの [エンタープライズ] セクションで表示されるサイトは、次のうちのどれですか (該当するものをすべて選択してください)。

- ☐ ドキュメント センター サイト
- ☐ コミュニティ サイト
- ☐ エンタープライズ Wiki
- ☐ 検索センター サイト
- ☐ レコード センター サイト

解答:

- ☒ ドキュメント センター サイト
- ☐ コミュニティ サイト
- ☐ エンタープライズ Wiki
- ☒ 検索センター サイト
- ☒ レコード センター サイト

フィードバック: コミュニティ サイトとエンタープライズ Wiki は、SharePoint 管理センターのサイト コレクション テンプレートの [エンタープライズ] セクションでは使用できません。

質問: サイト コレクションを削除しても、30 日間は、ごみ箱から復元できます。

- ☐ 正
- ☐ 誤

解答:

- ☒ 正
- ☐ 誤

フィードバック: サイト コレクションを削除すると、完全に削除されるまで 30 日間ごみ箱に保存されます。これにより、誤って削除された場合、または状況が変わってサイト コレクションを保持することになった場合、30 日以内であれば復元することができます。

質問: サイト コレクションの作成時に実行する必要があるアクションは、次のうちのどれですか (該当するものをすべて選択してください)。

- ☐ 管理者を定義する
- ☐ 共有の設定を定義する
- ☐ セカンダリ管理者を定義する
- ☐ 言語を設定する
- ☐ 記憶域クォータを設定する

解答：

- (√) 管理者を定義する
- () 共有の設定を定義する
- () セカンダリ管理者を定義する
- (√) 言語を設定する
- () 記憶域クォータを設定する

フィードバック： サイト コレクションの作成後に、共有の設定、セカンダリ管理者、および記憶域クォータを定義できます。

参考資料

サイト コレクションの計画

ベスト プラクティス

ベスト プラクティスとして、複数のサイト コレクション管理者を定義することをお勧めします。この場合、追加された管理者は、プライマリ サイト コレクション管理者のバックアップとしての役割を果たします。

Windows PowerShell によるサイト コレクションの管理



参考資料： 詳細については、次のサイトを参照してください。

SharePoint Online 管理シェルの概要

<https://technet.microsoft.com/library/fp161388.aspx>



参考資料： 詳細については、次のサイトを参照してください。

SharePoint Online で Windows Powershell コマンドレットを使用してサイト コレクションを管理する

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/fp161374.aspx>

レッスン 3

外部ユーザー共有の計画と構成

目次

質問と解答	9-8
参考資料	9-9

質問と解答

質問 : 外部ユーザーの正しい定義は何ですか。

- ☐ Microsoft 以外のアカウントを持つユーザー
- ☐ Microsoft アカウントを持つユーザー
- ☐ 組織の Azure Active Directory 内のユーザー
- ☐ 組織の Azure Active Directory 外のユーザー
- ☐ 任意の Azure Active Directory 内のユーザー

解答 :

- ☐ Microsoft 以外のアカウントを持つユーザー
- ☐ Microsoft アカウントを持つユーザー
- ☐ 組織の Azure Active Directory 内のユーザー
- ☒ 組織の Azure Active Directory 外のユーザー
- ☐ 任意の Azure Active Directory 内のユーザー

フィードバック : 組織の Azure Active Directory 外のユーザーが外部ユーザーと見なされます。

質問 : 管理者はどこで Office 365 テナントの外部共有を有効にできますか (該当するものをすべて選択してください)。

- ☐ Office 365 管理センターで、セットアップ メニューを使用します。
- ☐ Office 365 管理センターで、外部共有メニューを使用します。
- ☐ SharePoint 管理センターで、サイト コレクション メニューを使用します。
- ☐ SharePoint 管理センターで、アプリ メニューを使用します。
- ☐ SharePoint 管理センターで、設定メニューを使用します。

解答 :

- ☐ Office 365 管理センターで、セットアップ メニューを使用します。
- ☒ Office 365 管理センターで、外部共有メニューを使用します。
- ☐ SharePoint 管理センターで、サイト コレクション メニューを使用します。
- ☐ SharePoint 管理センターで、アプリ メニューを使用します。
- ☒ SharePoint 管理センターで、設定メニューを使用します。

フィードバック : Office 365 管理者が外部ユーザー共有を構成できる 2 つのオプションがあります。Office 365 管理センターの外部共有メニューと SharePoint 管理センターの設定メニューです。

質問: ユーザーの観点から、内部ユーザーの場合も外部ユーザーの場合と同じ方法で、SharePoint Online 内のコンテンツを共有できます。

() 正

() 誤

解答:

(√) 正

() 誤

フィードバック: 適切な設定により、内部と外部のユーザーは同じユーザー エクスペリエンスでコンテンツを共有できます。

参考資料

外部ユーザー共有に関する考慮事項



参考資料: 詳細については、次のサイトを参照してください。

SharePoint Online 環境の外部共有を管理する

<https://support.office.com/ja-JP/article/c8a462eb-0723-4b0b-8d0a-70feafe4be85>

外部ユーザー共有の構成



参考資料: テナントまたはサイト コレクションの外部ユーザー共有を構成する方法については、次のサイトを参照してください。

SharePoint Online 環境の外部共有を管理する

<https://support.office.com/ja-JP/article/c8a462eb-0723-4b0b-8d0a-70feafe4be85>

Windows PowerShell による外部ユーザー共有の管理



参考資料: 詳細については、次のサイトを参照してください。

Windows PowerShell for SharePoint Command Builder

<http://aka.ms/n3apxc>



参考資料: 詳細については、次のサイトを参照してください。

SharePoint Online 用 Windows PowerShell コマンドレットのインデックス

[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/fp161364\(v=office.15\).aspx](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/fp161364(v=office.15).aspx)

演習の質問と解答

演習 : SharePoint Online の構成

質問と解答

質問 : 外部サイトへのアクセスを確認する最良の方法は何ですか。

解答 : 最良の方法は、外部のテスト ユーザーによりアクセスをテストする、または外部テスト ユーザーを作成して後でアクセスをテストすることです。

質問 : ユーザー プロファイル設定を構成する最良の方法は何ですか。また、すべてのデータをどこから取得しますか。

解答 : Azure AD Connect を保有しているかを確認し、Active Directory から Azure AD へのデータの同期を構成します。Azure AD のフィールドは、[プロファイル フィールド] セクションと同期します。

復習とまとめ

ベスト プラクティス

SharePoint Online は、いくつかの構成オプションを提供します。ユーザーが作業を開始できる快適な SharePoint Online 環境を用意するためには、グループ作業のソリューションの計画および SharePoint Online の構成を前もっておこなう必要があります。

考慮が必要な主な点は次のとおりです。

- ユーザーの登録を開始する前に、適切な計画を立てる。
- サービス全体で一貫した共有ポリシーを作成する。
- 可能な限り、サイト コレクションの生成を自動化する。

復習問題

質問: 適切なサイト コレクションの計画のためのチェックリストを作成してください。

解答: サイト コレクションを計画する際、次を計画する必要があります。

- 並列またはトップダウンのサイト コレクション
- アクセス許可の継承
- ブランド化
- 外部ユーザー共有のアクセス許可
- サイト クォータの取り得る値

第 10 章

Office 365 コラボレーション ソリューションの計画と構成

目次

レッスン 1 : Yammer Enterprise の計画と管理	10-2
レッスン 2 : OneDrive for Business の計画と構成	10-5
レッスン 3 : Office 365 グループの構成	10-9
演習の質問と解答	10-11
復習とまとめ	10-12

レッスン 1

Yammer Enterprise の計画と管理

目次

質問と解答	10-3
-------------	------

質問と解答

質問 : Yammer Enterprise を利用できる 3 つの Office 365 サブスクリプションを選択してください。

- ☐ Basic ネットワークと SharePoint Online
- ☐ Enterprise ネットワークと Office 365
- ☐ Basic ネットワークと Office 365
- ☐ Enterprise ネットワーク
- ☐ Enterprise ネットワークと SharePoint Online

解答 :

- ☐ Basic ネットワークと SharePoint Online
- ☒ Enterprise ネットワークと Office 365
- ☐ Basic ネットワークと Office 365
- ☒ Enterprise ネットワーク
- ☒ Enterprise ネットワークと SharePoint Online

質問 : Yammer Enterprise ネットワークでのみ使用できる 3 つの機能はどれですか。

- ☐ セキュア エンタープライズ ソーシャル ネットワーク
- ☐ エンタープライズ管理者
- ☐ グループ管理者
- ☐ 認証管理者
- ☐ エンタープライズ統合

解答 :

- ☐ セキュア エンタープライズ ソーシャル ネットワーク
- ☒ エンタープライズ管理者
- ☐ グループ管理者
- ☒ 認証管理者
- ☒ エンタープライズ統合

質問： Office 365 で Yammer Enterprise を使用する前に、実装する必要がある 2 つのものは何ですか。

- ☐ 確認済みカスタム ドメイン
- ☐ 有料の Yammer Enterprise ネットワーク
- ☐ Office 365 の全体管理者
- ☐ 確認済みドメインを備えた Office 365 の全体管理者
- ☐ Yammer の認証管理者

解答：

- ☒ 確認済みカスタム ドメイン
- ☐ 有料の Yammer Enterprise ネットワーク
- ☐ Office 365 の全体管理者
- ☒ 確認済みドメインを備えた Office 365 の全体管理者
- ☐ Yammer の認証管理者

レッスン 2

OneDrive for Business の計画と構成

目次

質問と解答	10-6
参考資料	10-7

質問と解答

質問：OneDrive for Business の特性をすべて選択してください。

- ☐ 最大で無制限の記憶域を提供する
- ☐ 個人向けに無料のオンライン ストレージを提供する
- ☐ あらゆるデバイスから利用できる
- ☐ Office 365 プランと SharePoint Online プランに含まれている
- ☐ 最大 15 GB のサイズのファイルをアップロードできる

解答：

- ☒ 最大で無制限の記憶域を提供する
- ☐ 個人向けに無料のオンライン ストレージを提供する
- ☒ あらゆるデバイスから利用できる
- ☒ Office 365 プランと SharePoint Online プランに含まれている
- ☐ 最大 15 GB のサイズのファイルをアップロードできる

質問：OneDrive for Business 次世代同期クライアントでは、選択的同期が可能である。

- ☐ 正
- ☐ 誤

解答：

- ☒ 正
- ☐ 誤

質問：OneDrive for Business と SharePoint Online に格納するファイル名で、サポートされていない文字を 3 つ選択してください。


- ☐ #
- ☐ {
- ☐ &
- ☐ %
- ☐ ?


解答：


- ☒ #
- ☐ {
- ☐ &
- ☒ %
- ☒ ?


参考資料


OneDrive for Business クライアントの構成と同期


 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
Office のシステム要件
<https://products.office.com/ja-jp/office-system-requirements>

 **注** : さまざまな言語の x86 と x64 の各プラットフォーム向けの OneDrive for Business 同期アプリを、<http://aka.ms/we3v3g> からダウンロードしてください。


 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
エンタープライズ環境に新しい OneDrive 同期クライアントを展開する
<https://support.office.com/ja-jp/article/3f3a511c-30c6-404a-98bf-76f95c519668>


 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
MacOS で OneDrive の次世代同期クライアントを構成する
<https://support.office.com/ja-jp/article/eadddc4e-edc0-4982-9f50-2aef5038c307>


 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
OneDrive の同期処理を改善する
<https://support.office.com/ja-jp/article/7af500d9-a18e-4abb-8450-b94f4e52c1a0>


 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
使用している OneDrive のバージョンは何ですか
<https://support.office.com/ja-jp/article/19246eae-8a51-490a-8d97-a645c151f2ba>

ファイルの OneDrive for Business への移行

 **参考資料** : MicrosoftEasyFix20150 ユーティリティは、次のサイトからダウンロードしてください。
OneDrive for Business を介して SharePoint ライブラリをコンピューターに同期する際の制限事項
<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2933738>

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
リストまたはライブラリに追加できないファイルの種類
<https://support.office.com/ja-jp/article/30be234d-e551-4c2a-8de8-f8546ffbf5b3>

 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
SharePoint Online 制限
<https://support.office.com/ja-jp/article/8f34ff47-b749-408b-abc0-b605e1f6d498>

 **参考資料** : 移行時に使用できるサードパーティ ツールの一覧については、次のサイトを参照してください。
Migrating File Shares to OneDrive for Business
<http://aka.ms/oo1zjq>



参考資料: アップロード速度をチェックするには、<http://www.speedtest.net> などの速度テストサービスを使用できます。

OneDrive for Business の実装計画



参考資料: 必要な前提条件と構成設定、および SharePoint Server 2013 で OneDrive for Business を計画する方法については、次のサイトを参照してください。

SharePoint Server 2013 での OneDrive for Business の計画

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn232145.aspx#section1>



参考資料: 詳細については、次のサイトを参照してください。

ユーザーを OneDrive for Business の Office 365 にリダイレクトする方法

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn627525.aspx>

レッスン 3

Office 365 グループの構成

目次

質問と解答.....	10-10
------------	-------

質問と解答

質問： Office 365 グループと既に統合されている 2 つのサービスを選択してください。

- ☐ OneDrive for Business
- ☐ Yammer
- ☐ Delve
- ☐ OneNote
- ☐ Skype for Business

解答：

- ☒ OneDrive for Business
- ☐ Yammer
- ☐ Delve
- ☒ OneNote
- ☐ Skype for Business

質問： Office 365 グループには投票機能がある。

- ☐ 正
- ☐ 誤

解答：

- ☐ 正
- ☒ 誤

質問： グループを無効にするために使用する Windows PowerShell コマンドレットはどれですか。

- ☐ Set-OwaMailboxPolicy -Identity test.com¥OwaMailuserPolicy-Default -GroupCreationEnabled \$true
- ☐ Set-OwaMailboxPolicy -Identity test.com¥OwaMailboxPolicy-Default -GroupCreationEnabled \$false
- ☐ Set-OwaMailuserPolicy -Identity test.com¥OwaMailboxPolicy-Default -GroupCreationEnabled \$false
- ☐ Set-OwaMailuserPolicy -Identity test.com¥OwaMailUserPolicy-Default -GroupCreationDisabled \$true
- ☐ Set-OwaMailuserPolicy -Identity test.com¥OwaMailboxPolicy-Default -GroupCreationDisabled \$true

解答：

- ☐ Set-OwaMailboxPolicy -Identity test.com¥OwaMailuserPolicy-Default -GroupCreationEnabled \$true
- ☒ Set-OwaMailboxPolicy -Identity test.com¥OwaMailboxPolicy-Default -GroupCreationEnabled \$false
- ☐ Set-OwaMailuserPolicy -Identity test.com¥OwaMailboxPolicy-Default -GroupCreationEnabled \$false
- ☐ Set-OwaMailuserPolicy -Identity test.com¥OwaMailUserPolicy-Default -GroupCreationDisabled \$true
- ☐ Set-OwaMailuserPolicy -Identity test.com¥OwaMailboxPolicy-Default -GroupCreationDisabled \$true

演習の質問と解答

演習 : Office 365 コラボレーション ソリューションの計画と構成

質問と解答

質問 : Yammer に Office 365 ID を適用する場合、Office 365 ID を持たない Yammer ユーザーにどのような影響がありますか。

解答 : Office 365 にフェデレーション ID を実装すると、ユーザーは SSO を使用してサインインします。Yammer ID でユーザーはサインインできなくなります。

質問 : Office 365 グループを作成し、グループの所有者を追加するためには、どの Windows PowerShell コマンドレットを使用しますか。

解答 : まず、Exchange Online のリモート PowerShell に接続する必要があります。次に、New-UnifiedGroup コマンドレットを使用して Office 365 グループを作成し、New-UnifiedGroupLinks コマンドレットを使用して所有者を追加します。

復習とまとめ

ベスト プラクティス

- Office 365 で、エンタープライズ ソーシャル ネットワークとして Yammer Enterprise を常に有効にします。
- 利用ポリシーを設計します。
- Yammer Enterprise の管理オプションを理解します。
- Yammer を初めて使用するユーザーをサポートします。
- さまざまな OneDrive for Business 同期クライアントとその制限と機能を理解します。
- Office 365 全体にわたって一貫した共有ポリシーを作成します。
- Office 365 グループは Office 365 の一部のコンポーネントにとって不可欠なものであるため、Office 365 グループを使用する必要があるかどうか、および使用する場合を決定します。
- Office 365 グループが、ユーザー中心型か集中管理型かを決定します。

一般的な問題とトラブルシューティングのヒント

一般的な問題	トラブルシューティングのヒント
OneDrive for Business で同期が機能しない。	<ul style="list-style-type: none"> • 同期クライアントの制限を確認します。 • ファイル名を確認します。 • ファイル名の長さを確認します。 • ファイル サイズを確認します。
異なる Office 365 ドメインに複数の Yammer ネットワークが存在する。	<ul style="list-style-type: none"> • 統合計画を定義します。 • 両方のネットワークのユーザーに伝えます。 • 移行計画を作成します。
管理者が知らない間に、Office 365 グループが有効化され、使用される。	<ul style="list-style-type: none"> • Office 365 内で進行中の変更を把握します。 • グループを確認し、名前付けポリシーを定義します。

復習問題

質問：Office 365 グループと Yammer の相違点と、どちらか一方のツールが必要な使用例について話合ってください。

解答：Yammer と Office 365 グループには、次の違いがあります。

- Yammer では、外部ユーザーを招待し、参加させることができる。
- Office 365 Planner には、Office 365 グループが必要である。
- Yammer は、スタンドアロン ツールとしても機能できる。

第 11 章

Rights Management およびコンプライアンスの計画と構成

目次

レッスン 1 : Office 365 のコンプライアンス機能の概要	11-2
レッスン 2 : Office 365 での Azure Rights Management の計画と構成	11-5
レッスン 3 : Office 365 のコンプライアンス機能の管理	11-7
演習の質問と解答	11-9
復習とまとめ	11-10

レッスン 1

Office 365 のコンプライアンス機能の概要

目次

質問と解答	11-3
参考資料	11-3

質問と解答

質問: カスタマー コンプライアンスの設定要素は何ですか。

- ☐ DLP
- ☐ データ処理契約
- ☐ ファイルレベルでのアクセス制限を可能にする Rights Management サービス
- ☐ ISO 27018
- ☐ セキュリティの強化と認証ベースの電子メール アクセスを可能にする S/MIME

解答:

- ☒ DLP
- ☐ データ処理契約
- ☒ ファイルレベルでのアクセス制限を可能にする Rights Management サービス
- ☐ ISO 27018
- ☒ セキュリティの強化と認証ベースの電子メール アクセスを可能にする S/MIME

質問: セキュリティ/コンプライアンス センターに存在する役割グループは何ですか。

- ☐ 電子情報開示管理者
- ☐ 訴訟ホールド管理者
- ☐ サービス アシュアランス ユーザー
- ☐ コンプライアンス ユーザー
- ☐ コンプライアンス レビュー担当者

解答:

- ☒ 電子情報開示管理者
- ☐ 訴訟ホールド管理者
- ☒ サービス アシュアランス ユーザー
- ☐ コンプライアンス ユーザー
- ☐ コンプライアンス レビュー担当者

参考資料

Office 365 のコンプライアンスとセキュリティの機能



参考資料: データ地域については、次のサイトを参照してください。

Where is my data?
<http://aka.ms/14tjga>



参考資料: 詳細については、次のサイトを参照してください。

Office 365 セキュリティ センター
<https://products.office.com/ja-jp/business/office-365-trust-center-welcome>

Office 365 セキュリティ/コンプライアンス センターの概要



参考資料: 詳細については、次のサイトを参照してください。

Office 365 Service Trust Portal

<http://aka.ms/vqu38w>



参考資料: このドキュメントの作成時点では、Office 365 Secure Score はプレビュー版であり、機能や可用性は変更されている可能性があります。詳細については、次のサイトを参照してください。

O365 Secure Score

<http://aka.ms/h7br1z>

レッスン 2

Office 365 での Azure Rights Management の計画と構成

目次

質問と解答.....	11-6
参考資料.....	11-6

質問と解答

質問: カスタム Azure RMS テンプレートで利用できるグループはどれですか。

- ☐ ビューアー
- ☐ 作成者
- ☐ 閲覧者
- ☐ ブロッカー
- ☐ 共同作成者

解答:

- ☒ ビューアー
- ☐ 作成者
- ☐ 閲覧者
- ☐ ブロッカー
- ☒ 共同作成者

質問: Azure RMS を 2 つの組織間で使用するには、直接的な Point-to-Point の関係で信頼を定義する必要があります。

- ☐ 正
- ☐ 誤

解答:

- ☐ 正
- ☒ 誤

参考資料

Azure RMS と Office 365 の統合の計画



参考資料: 詳細については、次のサイトを参照してください。

Azure Rights Management Administration Tool

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=30339>

Azure RMS 統合の構成



参考資料: モバイル アプリケーションおよびデスクトップ クライアント用のアプリケーションのダウンロードについては、次のサイトを参照してください。

Microsoft Azure Information Protection

<http://aka.ms/j19a1v>

レッスン 3

Office 365 のコンプライアンス機能の管理

目次

質問と解答	11-8
参考資料	11-8

質問と解答

質問：使用可能な保持タグアクションの種類を選択してください。

- ☐ 一意の名前
- ☐ 削除アクション
- ☐ 回復可能なアクション
- ☐ 回復不可能なアクション
- ☐ 作成アクション

解答：

- ☒ 一意の名前
- ☒ 削除アクション
- ☒ 回復可能なアクション
- ☐ 回復不可能なアクション
- ☐ 作成アクション

質問：保持ポリシーは、電子メールとドキュメントを保持することで、必要なコンテンツを維持するのに役立ちます。

- ☐ 正
- ☐ 誤

解答：

- ☐ 正
- ☒ 誤

参考資料

監査レポートの構成



参考資料：詳細については、次のサイトを参照してください。

Office 365 のセキュリティ センターとコンプライアンス センターで監査ログを検索する
<https://support.office.com/ja-jp/article/0d4d0f35-390b-4518-800e-0c7ec95e946c>

演習の質問と解答

演習 : Rights Management とコンプライアンスの構成

質問と解答

質問 : 組織の財務データを保護するための最善の方法は何ですか。

解答 : DLP ルールを作成して、Azure RMS を使用することで、その情報を含むすべてのファイルと電子メールを保護することが、最善の方法です。

質問 : アイテム保持ポリシーは、メールボックスの容量を削減するのに役立ちます。

☐ 正

☐ 誤

解答 :

☐ 正

☒ 誤

復習とまとめ

ベスト プラクティス

セキュリティ強化は継続的なプロセスです。適切に計画し、テナントを準備することは、ユーザー環境のセキュリティを確保するのに役立ちます。

一般的な問題とトラブルシューティングのヒント

一般的な問題	トラブルシューティングのヒント
暗号化したコンテンツにアクセスできない。	スーパー ユーザー アカウントを構成して、そのコンテンツにアクセスします。

第 12 章

Office 365 の監視とトラブルシューティング

目次

レッスン 1 : Office 365 のトラブルシューティング	12-2
レッスン 2 : Office 365 のサービス正常性の監視	12-5
演習の質問と解答	12-8
復習とまとめ	12-9

レッスン 1

Office 365 のトラブルシューティング

目次

質問と解答	12-3
参考資料	12-3

質問と解答

質問 : Office 365 の監視とトラブルシューティングに使用できるオプションまたはツールはどれですか。

- ☐ サービス正常性
- ☐ プロテクション センター
- ☐ サービス リクエスト
- ☐ 通知センター
- ☐ アラート センター

解答 :

- ☒ サービス正常性
- ☐ プロテクション センター
- ☒ サービス リクエスト
- ☐ 通知センター
- ☐ アラート センター

フィードバック : Office 365 の監視とトラブルシューティングには、サービスの正常性とサービス リクエストを使用できます。

質問 : Microsoft Office 365 サポート/回復アシスタント ツールは、ユーザーが一般的な Outlook の問題を解決するために実行できる新しいツールです。

- ☐ 正
- ☐ 誤

解答 :

- ☒ 正
- ☐ 誤

参考資料

Office 365 のトラブルシューティングの概要



参考資料 : Office 365 の特定の問題に対してどのツールを使用すべきかについては、次のサイトを参照してください。

Office 365 Tools and Diagnostics

<https://blogs.technet.microsoft.com/jovath/2016/03/31/office-365-tools-and-diagnostics-office-365-enterprise-tools/>

ハイブリッド環境で発生する空き時間情報問題のトラブルシューティングツール



参考資料: ハイブリッド環境で発生する空き時間情報問題のトラブルシューティング ツールは、次のサイトからにアクセスできます。

Exchange ハイブリッド環境での空き時間情報の問題のトラブルシューティング

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/10092/troubleshooting-free-busy-issues-in-exchange-hybrid-environment>

レッスン 2

Office 365 のサービス正常性の監視

目次

質問と解答.....	12-6
参考資料.....	12-6

質問と解答

質問: [サービス正常性] ダッシュボードのサービスには、次のどの状態を適用できますか。

- ☐ Normal service
- ☐ サービス異常
- ☐ 拡張復旧
- ☐ 調査中
- ☐ 処理中断

解答:

- ☒ Normal service
- ☐ サービス異常
- ☒ 拡張復旧
- ☒ 調査中
- ☐ 処理中断

質問: Office 365 では、どのような方法を使用してサービス リクエストを開始できますか。

- ☐ Skype for Business を使用する
- ☐ 電子メールを使用する
- ☐ 電話を使用する
- ☐ Office 365 管理センターを使用する
- ☐ Office 365 アプリ起動ツールを使用する

解答:

- ☐ Skype for Business を使用する
- ☐ 電子メールを使用する
- ☒ 電話を使用する
- ☒ Office 365 管理センターを使用する
- ☐ Office 365 アプリ起動ツールを使用する

参考資料

Windows PowerShell による Exchange Online レポートの管理



参考資料: Exchange Online Protection コマンドレットの一覧については、次のサイトを参照してください。

Exchange Online Protection のコマンドレット

[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn621038\(v=exchg.160\).aspx](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn621038(v=exchg.160).aspx)

Office 365 サービス リクエスト



参考資料 : 詳細は、次のサイトを参照してください。

追加のサポート オプション

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/office-365-support.aspx#AdditionalSupport>

Operations Manager による Office 365 の監視



参考資料 : この管理パックの取得とセットアップについては、次のサイトを参照してください。

System Center Management Pack for Office 365

<http://aka.ms/it7q1b>

演習の質問と解答

演習 : Rights Management とコンプライアンスの構成

質問と解答

質問 : どのようにして、特定のユーザー グループのすべての失敗したメッセージを表示しますか。

解答 : Exchange Online 管理センターで、管理者としてサインインし、[メール フロー]、[メッセージ追跡] の順にクリックし、[メンバーの選択] を選択します。

質問 : サービス インシデントと失敗を検索するために最初に使用するツールは何ですか。

解答 : 最初に使用するツールは、サービス正常性ダッシュボードです。

復習とまとめ

ベスト プラクティス

Office 365 の問題のトラブルシューティングに役立つツールが多数あります。その出発点として、最初の診断に Office 365 の DIY トラブルシューティング ツールを使用することができます。

一般的な問題とトラブルシューティングのヒント

一般的な問題	トラブルシューティングのヒント
Outlook クライアントの接続の問題	Microsoft リモート接続アナライザーで、自動検出の問題を見つけます。
Skype for Business クライアントに接続できない。	Microsoft Office 365 サポート/回復アシスタント ツールを使用します。

復習問題

質問: オンプレミス システムのサポートは、Office 365 のサポートとどのように異なるかを説明してください。

解答: オンプレミス システムでは、環境全体を完全に制御し、アクセスすることができます。そのため、システム障害やその他のインシデントの詳細なトラブルシューティングをおこなうことができます。Office 365 では、Microsoft がネットワーク、ハードウェア、および仮想マシン環境を管理します。ユーザーは、環境を確認したり、変更したりするためにアクセスすることはできません。ユーザーは、障害やインシデントが発生した際、サービス リクエストの作成のみができます。

第 13 章

ID フェデレーションの計画と構成

目次

レッスン 1 : ID フェデレーションの理解	13-2
レッスン 2 : AD FS 展開の準備	13-5
レッスン 3 : Office 365 との ID フェデレーションのための AD FS の展開	13-7
レッスン 4 : ハイブリッド ソリューションの計画と実装 (オプション)	13-10
復習とまとめ	13-12

レッスン 1

ID フェデレーションの理解

目次

質問と解答	13-3
参考資料	13-4

質問と解答

討論：フェデレーション ID と同期 ID の比較

ディレクトリ サービスと SSO は、オンプレミス環境とオンライン サービスを統合する上での重要な要素です。あなたは自社の Office 365 テナントの展開を準備しています。ユーザーがオンプレミスの AD DS の資格情報を使用できるようにするには、どの ID ソリューションを展開すればよいかを、ビジネス要件に基づいて評価する必要があります。

次のようなビジネス要件があります。

- オンプレミスの AD DS でユーザーによって更新されたパスワードは、5 分以内に Office 365 サービスのアクセスに使用できるようにする必要があります。
- パスワードの複雑さは、オンプレミスの AD DS のポリシーに準拠している必要があります。
- パスワードの有効期限は、オンプレミスの AD DS のポリシーに準拠している必要があります。

質問：エンジニアリング スタッフとこれらの要件について話し合った後、あなたのチームではどの認証オプションの展開を検討する必要があると思いますか。

- Azure AD Connect でのパスワード同期
- AD FS によるフェデレーション (SSO) 認証
- AD FS によるフェデレーション (SSO) 認証と Azure AD Connect でのパスワード同期

解答：ビジネス要件のすべてを満たす唯一のサポート オプションは、AD FS によるフェデレーション (SSO) 認証です。

Azure AD Connect により、その他の属性の標準のディレクトリ同期間隔よりも頻繁にパスワードが同期されます。パスワード同期機能は、2 分ごとに、パスワードの同期が必要かどうかをチェックします。

パスワード同期機能を有効にすると、オンプレミスの AD DS で構成されたパスワードの複雑さポリシーにより、Office 365 で同期対象ユーザーに定義されたすべての複雑さのポリシーが上書きされます。

ユーザーがパスワード同期機能の範囲内にいる場合、クラウド アカウント パスワードの有効期限は無期限に設定されます。これは、オンプレミス環境でユーザーのパスワードの期限が切れた場合でも、期限切れのパスワードを使用して Office 365 にサインインを継続できることを意味します。

パスワード同期機能は、フェデレーション ID を持つユーザーに対してパスワードの同期をおこないません。そのような機能はサポートされません。この制限には、次のような意味があります。

- 最初は Office 365 に対して同期されるパスワードを使用していた管理されたユーザーが、フェデレーション ユーザーに変換され、さらに管理されたユーザーに戻ると、最初に同期されていたパスワードは失われます。

最初はオンプレミスでパスワードを更新していたフェデレーション ユーザーが、管理されたユーザーに変換されると、クラウドに対してパスワードは同期されません。その結果、ユーザーは、オンプレミスの AD DS で設定されていたパスワードを使用して、Office 365 のサービスにアクセスできません。

参考資料

クレーム ベース認証



参考資料：クレーム ベース ID に関連する用語の定義の完全なリストについては、次のサイトを参照してください。

クレーム ベース ID の用語の定義

<https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ee534975.aspx>

AD FS とは



参考資料：デバイスを使用した MFA と SSO については、次のサイトを参照してください。
任意のデバイスからの職場への参加による業務用アプリケーション間の SSO とシームレスな
2 要素認証

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn280945.aspx>

レッスン 2


AD FS 展開の準備

目次


参考資料.....	13-6
-----------	------

参考資料


高可用性 AD FS 展開の計画


 **参考資料** : SQL Server の高可用性ソリューションについては、次のサイトを参照してください。
高可用性ソリューション (SQL Server)
<http://aka.ms/lsr6m4>

キャパシティ プランニング

 **参考資料** : AD FS キャパシティ プランニング サイジング スプレッドシートについては、次のサイトを参照してください。
AD FS サーバーの容量計画
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/gg749899.aspx>

AD FS の要件

 **参考資料** : AD FS でサポートされる属性ストアの完全なリストについては、次のサイトを参照してください。
属性ストアの役割
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd807093.aspx>

 **参考資料** : AD FS の要件については、次のサイトを参照してください。
AD FS の要件
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn554247.aspx>

レッスン 3


Office 365 との ID フェデレーションのための AD FS の展開


目次

参考資料.....	13-8
-----------	------


参考資料

AD FS のインストールと構成


 **参考資料** : 詳細については、次のサイトを参照してください。
SQL Server を使用するフェデレーション サーバー ファーム
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn554242.aspx>

 **参考資料** : AD FS の利用可能なすべての更新プログラムについては、次のサイトを参照してください。
Active Directory フェデレーション サービス (AD FS) と Web アプリケーション プロキシ (WAP) は必要な更新プログラム
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/mt126278.aspx>

AD FS プロキシのインストールと構成

 **参考資料** : プロキシ サインイン ページ フォームのカスタマイズについては、次のサイトを参照してください。
AD FS ユーザーのサインインのカスタマイズ
<https://technet.microsoft.com/windows-server-docs/identity/ad-fs/operations/ad-fs-user-sign-in-customization>

フェデレーション ID と同期 ID の比較

 **参考資料** : Windows PowerShell 用 Azure AD モジュールのコマンドレットをダウンロードおよびインストールする方法については、次のサイトを参照してください。
MSOnline
<http://aka.ms/lq99g4>

AD FS 展開の管理

 **参考資料** : Microsoft Office 365 Federation Metadata Update Automation Installation Tool については、次のサイトを参照してください。ここでツールをダウンロードできます。
Microsoft Office 365 Federation Metadata Update Automation Installation Tool
<http://aka.ms/ilhw8d>

SSO の検証



参考資料 : Microsoft RCA ツールへのアクセスについては、次のサイトを参照してください。

Announcing Microsoft Support and Recovery Assistant for Office 365
<http://aka.ms/bz5gll>

レッスン 4


ハイブリッド ソリューションの計画と実装 (オプション)

目次

参考資料	13-11
------------	-------


参考資料

Exchange Server ハイブリッド展開の概要

 **参考資料** : 強力な認証をサポートするハイブリッド Exchange Server の構成については、次のサイトを参照してください。


AD FS 2.0 Step-by-Step Guide: Integration with RSA SecurID in the Extranet
<http://aka.ms/15e665>

Exchange Server ハイブリッド展開の構成

 **参考資料** : Exchange Server 展開アシスタントについては、次のサイトを参照してください。
Exchange (IT 担当者向け)

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/office/dn788775>

SharePoint Server 展開の構成

 **参考資料** : ハイブリッド機能の構成についての情報は、次のサイトを参照してください。
SharePoint Server 2013 のハイブリッド構成のロードマップ

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn197168.aspx>

復習とまとめ

一般的な問題とトラブルシューティングのヒント

一般的な問題	トラブルシューティングのヒント
AD FS の構成中に gMSA オプションが無効にされている場合、[KDS ルート キーが設定されていないため、グループ管理 サービス アカウントを利用できません] のようなエラー メッセージが表示される場合があります。	<p>Windows Server 2016 ドメイン コントローラーで、次の Windows PowerShell コマンドレットを実行して、ドメインの gMSA を有効にすることができます。</p> <pre>Add-KdsRootKey -EffectiveTime (Get-Date) .AddHours(-10)</pre> <p>AD FS フェデレーション サーバー構成ウィザードに戻り、[前へ]、[次へ] の順にクリックし、[サービス アカウントの指定] ページを再入力します。gMSA オプションが有効になります。</p>
ディレクトリ同期の後、ユーザーは SSO による認証ができない。	SSO の問題の最も一般的な原因は、Office 365 とオンプレミスの AD DS のユーザーの UPN の照合にあります。ハイブリッド シナリオでは、AD DS の proxyAddresses 属性内のプライマリ SMTP アドレスが UPN と同一であることを確認する必要があります。
サービス アカウントの SPN が作成されていない。	<p>次の Windows PowerShell コマンドを使用して、サービス アカウントの SPN を作成することを検討します。</p> <pre>setspn -a host/<フェデレーション サービスの FQDN> <サービス アカウント名></pre> <p>SPN 設定を検証するには、次の Windows PowerShell コマンドを使用します。</p> <pre>setspn -l <サービス アカウント名></pre>

実際の問題とシナリオ

SSO でクラウド サービスにアクセスする際、コンピューターへのサインインに使用したアカウントで、クラウド サービスにアクセスする場合のみ、資格情報の入力を求められません。資格情報の保存を選んだ場合、次の問題が発生する可能性があります。

- ユーザーが資格情報の入力で [パスワードを保存する] チェック ボックスをオンにすると、AD FS と共に使用するために、資格情報マネージャーへの自身の資格情報の保存を選択することになります。保存された資格情報により、ユーザーがパスワードを変更するまでは、SSO エクスペリエンスが提供されます。ユーザーの新しいパスワードで資格情報マネージャーが更新されない場合、古い資格情報の使用が継続されます。保存された古い資格情報で何回もサインインが失敗してから、資格情報マネージャーは、ユーザーに正しい資格情報を求めます。
- ユーザー A がコンピューターにサインインし、ユーザー B のメールボックスにアクセスする場合、ユーザー B の資格情報を入力する必要があります。そのため、AD FS は、ユーザー B の資格情報の入力を求めます。ユーザー B の資格情報が入力され、ユーザーが認証されると、ブラウザーはユーザー B の資格情報をキャッシュし、同じブラウザーのインスタンスが同じアプリケーションへのアクセスまたは同じ AD FS サービス経由の認証に使用されると、キャッシュされた資格情報が再利用される可能性があります。そのため、ユーザーはサインアウトしてからサインインし直すか、ブラウザー キャッシュを消去するためにコンピューターを再起動することが必要な場合があります。

復習問題

質問：経験済みのことですが、ユーザーがオンライン サービスにアクセスするために認証をおこなう際、初回は認証が必要です。同じオンライン サービスへの以降のアクセスでは、クライアントは同じトークンを再び提示するため (トークンの有効期間が切れるまで)、ユーザーには認証の必要がありません。

すべてのクライアント (内部/外部) は最終的には新しいトークンを要求する必要がありますが、組織のセキュリティ ポリシーでは、外部ユーザーは新しいトークンを少なくとも 5 分ごとに要求し、内部ユーザーは少なくとも 10 分ごとに要求することを求めています。

これを適用するためには、どのような設定またはポリシーを使用する必要がありますか。

解答：

- Web アプリケーション プロキシ サーバーで、Windows PowerShell の `Set-AdfsWebApplicationProxyRelyingPartyTrust -TokenLifeTime` コマンドレットを使用して、Web アプリケーション プロキシ トークンの有効期限値を 5 分に設定します。
- AD FS サーバーで、Windows PowerShell の `Set-AdfsProperties -SSOLifeTime` コマンドレットを使用して、AD FS SSO Cookie の有効期限値を 10 分に設定します。
- AD FS サーバーで、Windows PowerShell の `Set-AdfsRelyingPartyTrust -TokenLifeTime` コマンドレットを使用して、証明書利用者信頼トークンの有効期限値を 20 分に設定します。

フィードバック：AD FS には、多くのトークンの有効期限の設定がありますが、上述の設定は、トークンに対するクライアント要求のほとんどに影響するため、重要です。外部要求については、3 つの設定のすべてが考慮されます。Web アプリケーション プロキシ トークンの有効期限は、外部要求に対して低く設定される必要があります。このトークンが期限切れになると、クライアントは新しいトークンのために AD FS にリダイレクトされます。

内部要求については、AD FS SSO Cookie の有効期限と証明書利用者信頼トークンの有効期限のみが考慮されます。内部ユーザーに対して、これらの値を高く設定する必要があります。証明書利用者信頼トークンの有効期限値は 20 分ですが、それぞれの証明書利用者信頼トークンの有効期限は、10 分追加されます。これは、SharePoint の `SPSecurityTokenServiceConfig -LogonTokenCacheExpirationWindow` の既定値が 10 に設定されているためです。この設定に従い、SharePoint Security Token Service は、期限切れになる 10 分前に、SAML トークンを無効にするため、ユーザーは中断なく新しいトークンを取得できます。